第５回朝霞市総合計画審議会
次　第

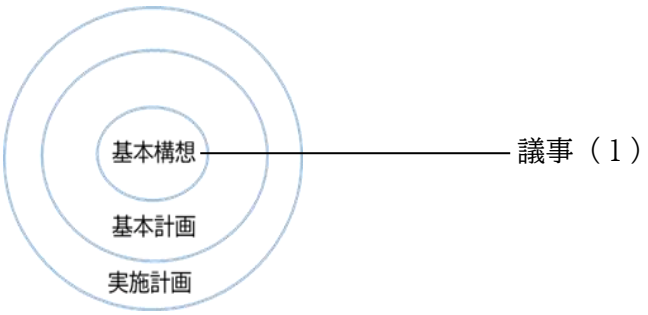
日時　令和６年５月１４日（火）
　　午前１０時から正午まで
場所　朝霞市役所　別館５階
　　５０１、５０２会議室

１　開　会

２　議　事
（１）朝霞市の将来像や基本概念について
　　（審議会委員によるワークショップ）

３　閉　会

〇本日ご審議いただく内容は総合計画の以下の部分です。



本日のスケジュール

10:00	開会		
10:05～10:10	オリエンテーション		
10:10～10:40	グループワーク	テーマ１	意見出し
10:40～10:55	グループワーク	テーマ１	意見まとめ
10:55～11:25	グループワーク	テーマ２	意見出し
11:25～11:40	グループワーク	テーマ２	意見まとめ
11:40～11:55	グループ発表		
11:55～12:00	事務連絡		
12:00	閉会		

第6次朝霞市総合計画の策定の流れ（予定）　第5回朝霞市総合計画審議会時点

年	月		市民	策定委員会	審議会
R5	4				
	5				
	6				
	7				
	8			● 第1回策定委員会(8/10) ・副委員長の選出、策定方針(案)	● 第1回審議会(8/22) ・委嘱式、策定方針(案)
	9				
	10			● 第2回策定委員会(10/2) ・策定方針(案) ● 第3回策定委員会(10/16) ・市民意識調査、基礎調査	● 第2回審議会(10/31) ・市民意識調査、基礎調査 ・子育て、転出入調査(案) 確認
	11		● 市民意識調査・青少年アンケート (11/24～12/25)		
	12		● 子育て・転出入調査 (12/15～1/15)		
R6	1		● 市民ワークショップ(1/20) ● 小中学生の意見聴取		
	2		● 分野別懇談会①(部会ごと) (2/17,18)	● 第4回策定委員会(2/15) ・市民意識調査等 報告 ・人口推計、目指す方向性 検討	
	3				● 第3回審議会(3/26) ・基礎調査結果(報告) ・意識調査結果等(報告) ・将来人口推計(議論) ・朝霞市が目指す方向性
R6	4			● 第5回策定委員会(4/10) ・基礎調査修正(報告) ・分野別市民懇談会の結果概要(報告) ・基本構想のイメージ ・第5次後期基本計画総括評価シート・第6次新たな基本計画検討シート ● 第6回策定委員会(4/30) ・第5次後期基本計画総括評価シート	● 第4回審議会(4/19) ・分野別市民懇談会の結果概要(報告) ・将来人口推計 ・「朝霞市の将来像」や「基本概念」 ・第5次後期基本計画総括評価シート
	5	上旬 中旬 下旬	● 青少年の意見聴取	● 第7回策定委員会 ・基本構想骨子(議論)	● 第5回審議会(5/14) ・朝霞市の将来像や基本概念について （審議会委員によるワークショップ） 今回はここです。
	6	上旬 中旬 下旬			● 第6回審議会(6/3) ・基本構想骨子(議論)
	7	上旬 中旬 下旬	● 小中学生の意見聴取 ﾎﾟｽﾀｰｾｯｼｮﾝ(市民説明会)	● 第8回策定委員会 ・基本構想素案(議論) ・基本計画で推進すべき分野別の重点①(議論)	● 第7回審議会 ・基本構想素案(議論) ・基本計画で推進すべき分野別の重点①(議論)
	8	上旬 中旬 下旬		● 第9回策定委員会 ・基本計画骨子案(分野別重点②と分野別施策体系)(議論)	● 第8回審議会 ・基本計画骨子案(分野別重点②と分野別施策体系)(議論)
	9	上旬 中旬 下旬	● 分野別懇談会②(部会ごと)		
	10	上旬 中旬 下旬		● 第10回策定委員会 ・基本計画素案①(議論)(1章、2章)	● 第9回審議会 ・基本計画素案①(議論)(1章、2章)
	11	上旬 中旬 下旬	● 青少年の意見聴取	● 第11回策定委員会 ・基本計画素案②(議論)(3章、4章)	● 第10回審議会 ・基本計画素案②(議論)(3章、4章)
	12	上旬 中旬 下旬			
R7	1	上旬 中旬 下旬		● 第12回策定委員会 ・基本計画素案③(議論)(5章、6章)	● 第11回審議会 ・基本計画素案③(議論)(5章、6章)
	2	上旬 中旬 下旬	● 市民説明会	● 第13回策定委員会 ・パブリックコメント案(基本構想案・基本計画案)(報告)	● 第12回審議会 ・パブリックコメント案(基本構想案・基本計画案)(報告)
	3	上旬 中旬 下旬	● パブリック・コメント		
	4	上旬 中旬 下旬		● 第14回策定委員会 ・パブリック・コメント結果(報告) ・基本構想案・基本計画案(パブコメ後修正案)	
	5	上旬			● 第13回審議会 ・パブリック・コメント結果(報告) ・基本構想案・基本計画案(パブコメ後修正案) ・答申案(議論)
		中旬 下旬			● 答申

※都市計画マスタープランとの連携については、別途進めます。

朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】調査結果の概要

基礎調査から

《時代潮流》外部環境

①人口減少と高齢化の進行
②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展
③子ども・子育て支援の充実と教育の新たな展開
④人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視
⑤社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）と多様性（ダイバーシティ）の尊重
⑥安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展
⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

《主要統計指標》内部環境

・本市は自然増・社会増であるが、増加幅は縮小傾向
・25～39歳の有配偶率は高く、合計特殊出生率1.25
・高齢化は緩やかで、人口構造が最も若い都市の一つ
・昼夜間人口比率、自市内従業割合は低い
・ベッドタウンの性格が強く、就労の場としての拠点性低
・相対的に見て高い所得水準にある市民が多い
・医療提供基盤はやや弱いが、健康寿命は長い
・自治会加入率が低く、かつ、一貫して低下傾向
・硬直化が見られているが、財政状況は比較的良い

《課題の整理～時代潮流と統計指標から～》

（1）人口増加傾向を可能な限り維持するとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備える必要がある
・総人口の水準を維持しながら、将来にわたり、バランスの良い人口構成を維持することが重要

（2）社会変革の進展を好機と捉え、移住・定住等を促していく必要がある
・オンライン化の進展を背景に、移住・定住等を促し、『住まい、働く場』としての機能を高める

（3）「子育てがしやすいまち」を実感できるよう子育て支援と教育の充実が必要である
・移住・定住の促進のためにも、子育て支援の充実による魅力向上と教育環境が重要

（4）豊かで安全・安心な、朝霞市での暮らしの魅力向上に向けた取組が重要である
・災害対策、健康寿命の延伸、社会参画促進、地域コミュニティの担い手確保等、安全安心な環境づくり

（5）デジタルを活用した効率的・効果的な行政運営と、健全な財政運営が重要である
・DX の推進、財源の確保に向けた取組、今後の扶助費等の増加を踏まえた健全な財政運営

市民等意識調査から

■市民意識調査

・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」が最多、次いで「便利」「快適」「居心地がよい」
・将来の市のキャッチフレーズは「安全・安心」「住みやすい」「緑・自然」が多い
・今後特に注力すべき分野は「安全・安心」「医療・保健」「子育て・教育」が多い
・未来に生かしたい強みは「都心への利便性」が最多、ほかに「交通利便性」「武蔵野の自然」「彩夏祭などイベント」

■転入・転出意識調査

・転入の理由は、「通勤・通学に便利」「住宅環境」「交通利便性」
・転出の理由は、「就職・転勤・転職」

■小中学生の意見聴取

・自然豊か、東京に近い、彩夏祭、イベントが多く楽しいところが好き
・大人になったら、家族や友人と買い物や食事、公園で遊ぶ、自然と触れ合うなどして過ごしたい

■青少年アンケート

・将来の市の望ましいイメージは「安全・安心」「便利」「快適」「居心地がよい」
・今後のまちづくりの方向性は「安全・安心」が最多、次いで「子育て・教育」「買い物等を楽しめる」が多い
・未来に生かしたい強みは「都心への近接性」「彩夏祭などイベント」「交通利便性」
・朝霞市の自慢や残したいものは、彩夏祭などイベント、交通便、自然や農産物
・朝霞市長だったとしたら、遊び場や公園を増やす、朝霞をもっと PR する

■子育て・定住調査

・子どもを生み育てやすくするには「経済的支援」が最多、次いで「保育サービス」「子どもの居場所づくり」「教育環境」が重要
・朝霞市での子育てでよかった点は「自然の豊かさ」
・朝霞市での子育ての改善点は「道路通行の安全」
・転入理由は「通勤・通学に便利」

人口推計から

《朝霞市人口の動向》

・本市は一貫して人口増加
・しかし近年は増加が鈍化する傾向
・少子高齢化が緩やかに進行
・自然増だが、自然減への突入が近い
・合計特殊出生率は1.25（低下傾向）
・25～34歳女性の出生率が低下
・社会増による人口増加を遂げてきた
・しかし近年は転出入均衡に近い
・転入超過が多い年代は20歳代後半

《人口シミュレーション》

【出生中位】合計特殊出生率は現状維持
【出生高位】合計特殊出生率が向上
【出生低位】合計特殊出生率が低下

【移動高位】純移動率は現状維持
【移動中位】緩やかに転出入均衡
【移動低位】比較的早期に転出入均衡

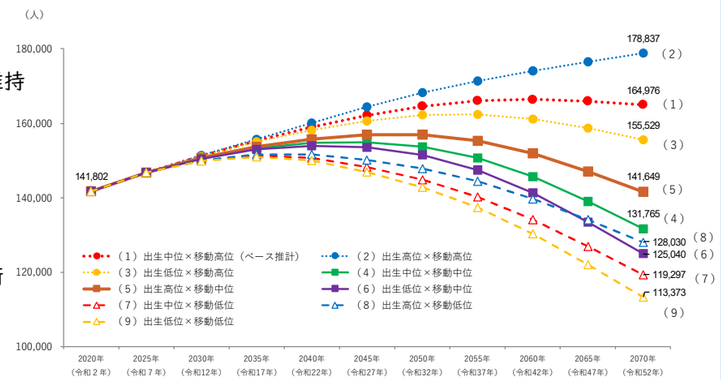
【出生中位】×【移動中位】を軸とした検討が妥当ではないか

《論点》

①総人口に関する論点
ア　本市の人口はどのような傾向で推移するとみるか
イ　出生に重きをおくか、転入促進に重きをおくか

②出生に関する論点
ア　合計特殊出生率はどのような傾向で推移するか
イ　どのような政策・施策が必要か。子育て世帯支援等

③転出入に関する論点
ア　本市の転出入はどのような傾向で推移するか
イ　どのような政策・施策が必要か。若者の定住促進等



ベース推計は過去５年間と同様の傾向が今後も続くと仮定した場合の推計

市民ワークショップから

《朝霞市のよいところ》

・都心に近く、交通の便がよい（2路線、バスなど）
・シェアリングサイクルのスポットがたくさんある
・公園が多い、身近な緑がある、黒目川や森が残る
・新鮮でおいしい野菜、地産地消
・彩夏祭やイルミネーションなど祭りやイベントが多い、シンボルロードがきれい
・転入超過で若い世代が増えている
・静かでゆったりしている、都会過ぎず田舎過ぎない

《朝霞市の改善が必要なところ》

・道幅が狭く安心して歩けない、坂道の移動が困難
・わくわく号の本数やルートの見直し
・小中学校や公共施設の老朽化、駅周辺以外が暗い
・教育に力を入れる、学童保育や子どもの居場所づくり
・球技など自由にできる場所が少ない
・商店街の活気、買い物や食事をしたくなる店がない
・地域の関係性が希薄、世代間交流がない
・全国的に認知度が低い、朝霞と言えばコレがない

《未来の朝霞のひと》

・地域の支え合いや交流がある、多様なコミュニティ、多世代参加、ひとのつながりが強い
・市民も市外の人も朝霞を楽しめる
・子どもへの教育を充実
・高齢者を見守り、高齢になっても働ける
・若者や働き世代が多い、ファミリー層が住める
・子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい

《未来の朝霞のまち》

・交通網の充実、歩きやすい道が増える、夜道の安全
・災害に強い、災害があっても安全に過ごせる
・緑が多く残っている、川遊びや虫取りができる
・多様な公園が充実、子どもの自由な遊び場の充実
・誰もが利用しやすい施設がある、大型商業施設、駅前
・自然と住環境のバランス、自然との共存

《未来の朝霞にぎわい》

・買い物や食事ができる場の充実、娯楽がたくさんある、商店街の活性化
・市の魅力の発信、市民に情報が届く
・多様なイベント、市民が祭りやイベントの運営を担う

朝霞市が目指すべき方向性【検討資料】本市の強み・弱みとキーワード

資料４－１に示した調査結果

本市の強み（好ましい点、今後も活かしたい点など）

◆ 人口の動向

✓ 人口減少社会にあって、人口の自然増・社会増を維持する

✓ 有配偶率が高い。合計特殊出生率は１．２５（県内では高）★

✓ 高い水準の社会増が続いてきた

✓ 高齢化は緩やか

✓ 人口構造が最も若い都市の一つ、子どもと子育て世代が多い

◆ まちの性格や環境

✓ 都心への交通利便性が高く、通勤・通学に便利である

✓ 交通の便が良い（鉄道が２路線、バスなども充実）

✓ 公園や身近な緑の多さ、黒目川の水辺や武蔵野の緑が魅力

◆ 市民の生活や文化

✓ 健康寿命が長い

✓ 彩夏祭やイルミネーションなどの祭りやイベントの豊かさ

◆ 行財政

✓ 財政力指数等多くの指標で他市を上回り、財政状況は比較的良好

本市の弱み（好ましくない点、今後改善したい点など）

◆ 人口の動向

✓ まもなく自然減の局面に突入する

✓ 合計特殊出生率は高いといっても１．２５かつ低下傾向

✓ 社会増は近年鈍化傾向にある

✓ 今後の高齢化も予測され対応が必要である

✓ 子どもと子育て世代の移住・定住が鍵となる

◆ まちの性格や環境

✓ 昼夜間人口比率が低く、市内で働く市民の割合も低い

✓ 道幅が狭い道路の改善や地域内公共交通機関の維持が必要である

✓ まちなかの商業、商店の活力向上が求められている

✓ 都市の個性や魅力の磨き上げが必要でないか（朝霞と言ったらコレ、等）

✓ 国内で自然災害が頻発しており、本市でも引き続き災害対策が重要でないか　★

◆ 市民の生活や文化

✓ 医療提供基盤（医師数・病床数）はやや弱い

✓ 地域コミュニティが希薄、自治会加入率は低く低下傾向

◆ 行財政

✓ 経常収支比率が高く、今後も財政の健全運営のための努力が必要

朝霞市が目指すべき方向性のキーワード

人口の増加（及び可能な限りの維持）

バランスの良い人口構成の維持

子どもを生み育てやすい環境　教育･学習環境

移住･定住の促進　住み続けたい魅力的な環境　個性

健康で長生き　地域での多様なつながり　まちの文化

買い物の楽しみ　まちの賑わい　居心地の良い空間

交通利便性　移動の手段の豊富さ　歩きやすい道

都市と豊かな自然の調和　安全･安心　快適

朝霞市の将来像等を構成する要素

★は総合計画審議会の意見を反映したもの

市民ワークショップ
～あさかの未来を話そう～

結果報告書

令和６年（２０２４年）３月

朝霞市

目次

１．市民ワークショップの概要 1
１－１．実施の目的 1
１－２．ワークショップ参加者 1
１－３．開催日時と場所 1
２．ワークショップの経過 2
２－１．当日の流れ 2
２－２．各グループの議論・意見 3
★グループ１ 3
★グループ２ 6
★グループ３ 9
★グループ４ 12
★グループ５ 15
★グループ６ 18
★グループ７ 21
★グループ９ 24
★グループ 10 27
２－３．当日の様子 30
３．総括 32
４．資料 33

※グループ編成の都合上、グループ8は欠番である。

１．市民ワークショップの概要

１－１．実施の目的

第6次朝霞市総合計画の策定にあたり、朝霞市のよいと思うところや改善が必要と思うところ、未来の朝霞市がどんなまちであったらよいかなど、まちづくりに関する市民の意向や朝霞市の将来像について、市民と意見交換を行い、計画策定に生かすために実施した。

１－２．ワークショップ参加者

朝霞市在住・在学・在勤等、市に関心のある方28人
朝霞市職員16人（テーブルの進行役として参加）

１－３．開催日時と場所

【開催日時】
　　1月20日（土）13:30～17:00
【開催場所】
　　朝霞市民会館（ゆめぱれす）　新館2階　高砂の間

２．ワークショップの経過

２－１．当日の流れ

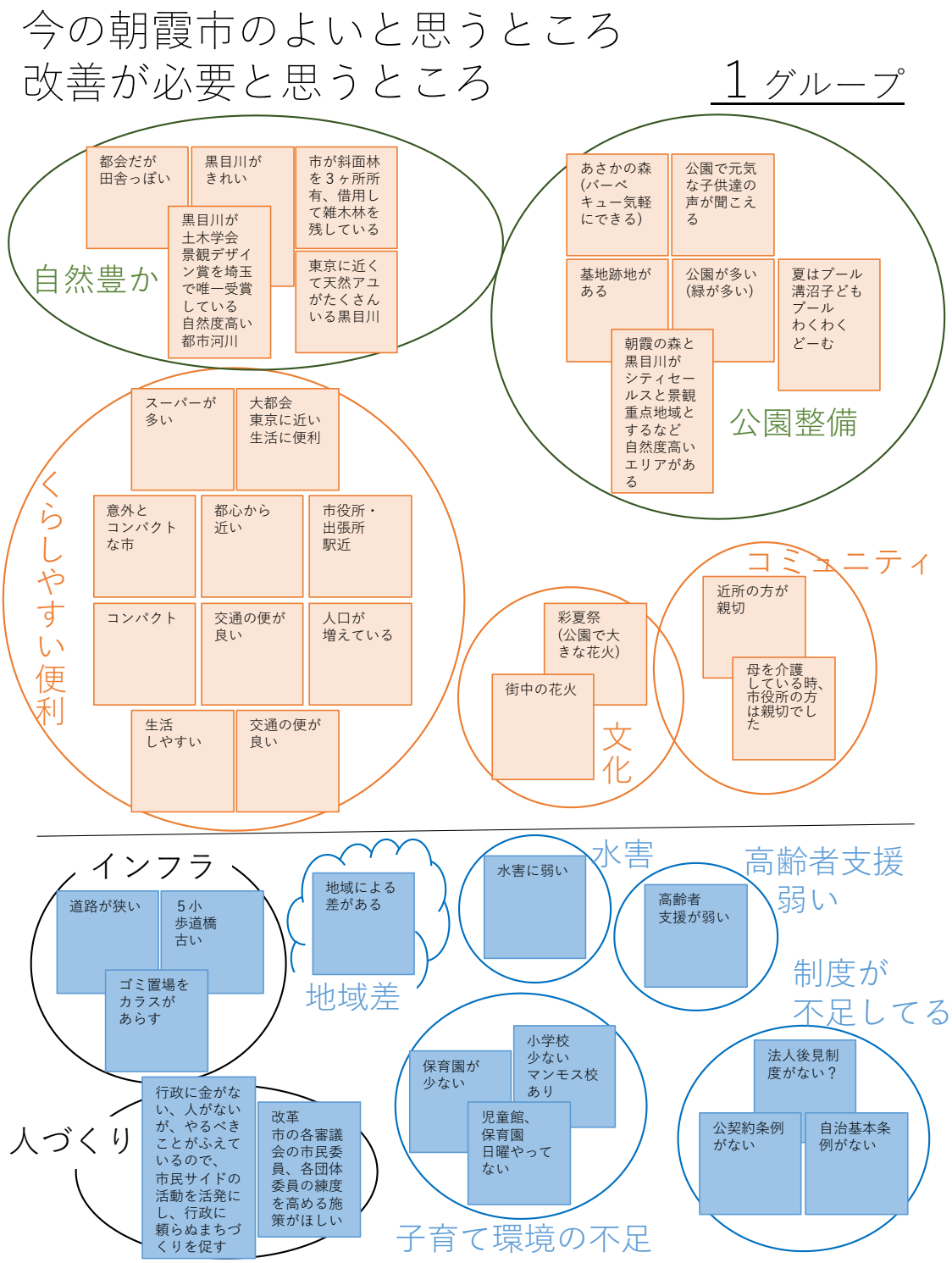
１グループ5人程度の9グループに分かれ、グループごとに、現在の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところを出し合い、その後、朝霞市の将来像を話し合った。

時間	内容	備考
13:00	開場	
13:30-13:35	開会・あいさつ	ワークショップの趣旨説明
13:35-13:55	オリエンテーション	・総合計画の概要説明 ・ワークショップの進め方の説明
13:55-14:45	グループワーク① 今の朝霞市のよいと思うところ ・改善が必要と思うところ	普段の生活で感じている朝霞市のよいところ（特徴、資源、自慢、誇り）、改善が必要なところ（よくなってほしいところ、足りないところ）を出し合う。
14:45-15:00	休憩	他のテーブルの話し合いを確認
15:00-16:00	グループワーク② 未来の朝霞市はどんなまち？	まち（市街地、緑・公園、交通、防災・防犯）、ひと（子ども、教育・学習、健康、支え合い）、にぎわい（産業、文化、買い物、働く場）の視点を参考に、10年後の朝霞市がどのようなまちになっていたらよいかを話し合う。
16:00-16:25	グループ発表	各グループから発表
16:25-16:30	今後の取組について	分野別市民懇談会の告知等
16:30	他のテーブルの話し合いを見てみよう（自由解散）	

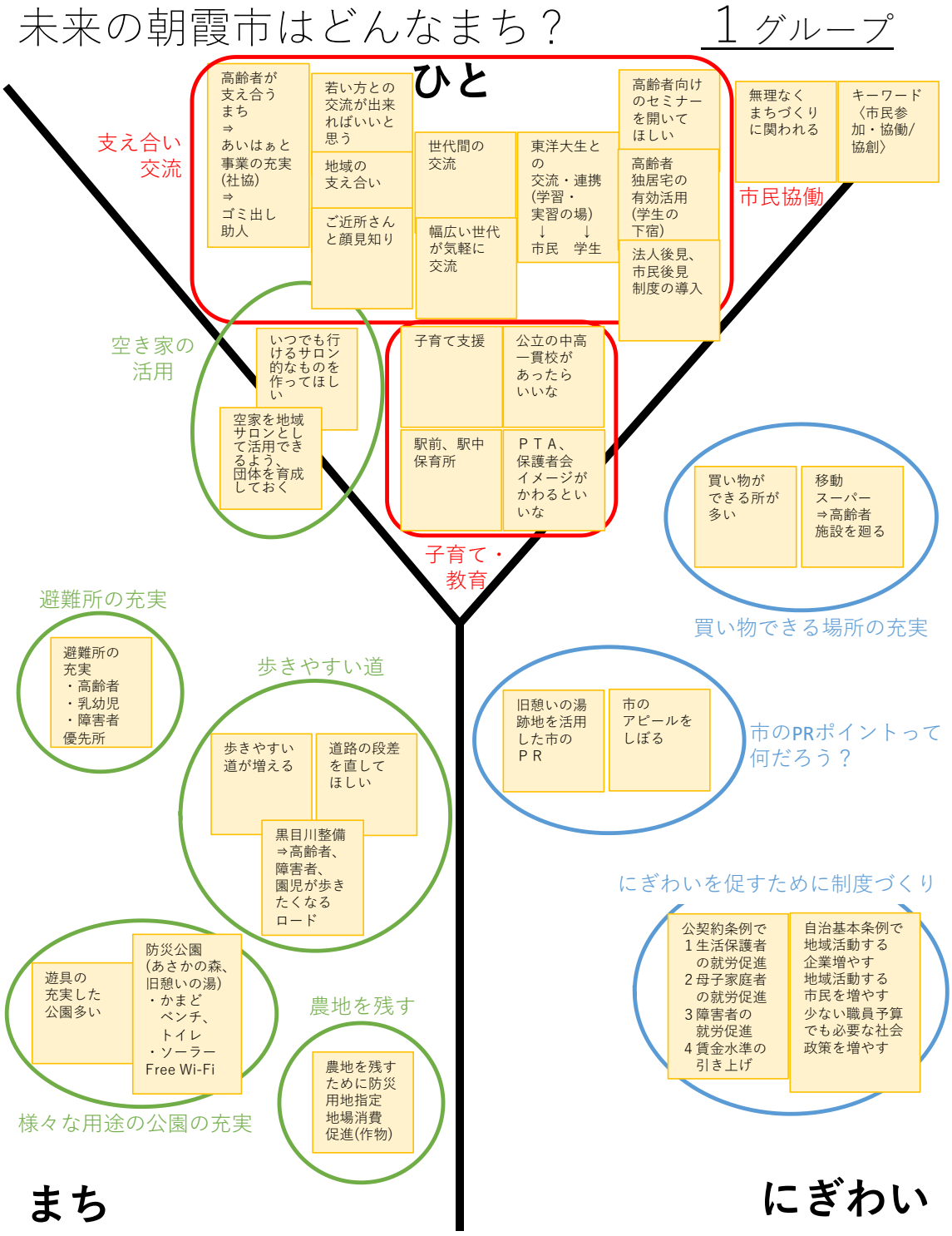
２－２．各グループの議論・意見

★グループ１

【１－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【１－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【１－３】話し合いの要点

⑴今の朝霞市のよいと思うところ

①自然が豊か：天然アユもいて、自然度が高い綺麗な黒目川（土木学会景観デザイン賞受賞）がある。市が所有・借用している雑木林がある。都会だが田舎っぽい。

②公園整備：公園が多い。溝沼子どもプールやわくわくどーむがある。朝霞の森でバーベキューができる。朝霞の森と黒目川が景観づくり重点地区で自然度が高い。

③くらしやすい便利：都心から近く交通の便が良い。市役所・出張所が駅から近い。スーパーが多い。コンパクトな市。生活しやすい。

④文化・コミュニティ：彩夏祭で街中での大きな花火。近所の人や市役所の人が親切。

⑵今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①子育て環境の不足：保育園や小学校が少ない。児童館や保育園が日曜日に休み。

②制度が不足している：法人後見制度がない。自治基本条例や公契約条例がない。

③インフラ：道路が古い。5小の歩道橋が古い。ごみ置き場をカラスが荒らす。

④人づくり：行政に人もお金もないのにやるべきことが増えているので、市民の活動を活発にし行政に頼らない町づくりを促す必要がある。市の各審議会の市民委員や、各団体委員の練度を高める施策がない。

⑤その他：高齢者支援が弱い。水害に弱い。地域による差がある。

⑶未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・世代間交流や近所づきあいなど市民がふれあい、地域の支え合い・交流があるまち。

・空き家を地域サロンとして活用できるよう団体を育成しておく。

・「市民参加・協働/協創」をキーワードに市民が無理なくまちづくりに関われるまち。

・公立の中高一貫校や、駅前・駅中に保育所をつくる等、子育て支援の充実したまち。

【まちに関するもの】

・黒目川の整備や道路の段差を減らす等、歩きやすい道が増える。

・農地を残すために、防災用地指定、地場消費の促進。

・避難所の充実(高齢者、乳幼児、障害のある人の優先所等)。

・遊具が充実した公園や防災公園など、多様な用途の公園が充実しているまち。

【にぎわいに関するもの】

・移動スーパーも含め、買い物できる場所の充実。

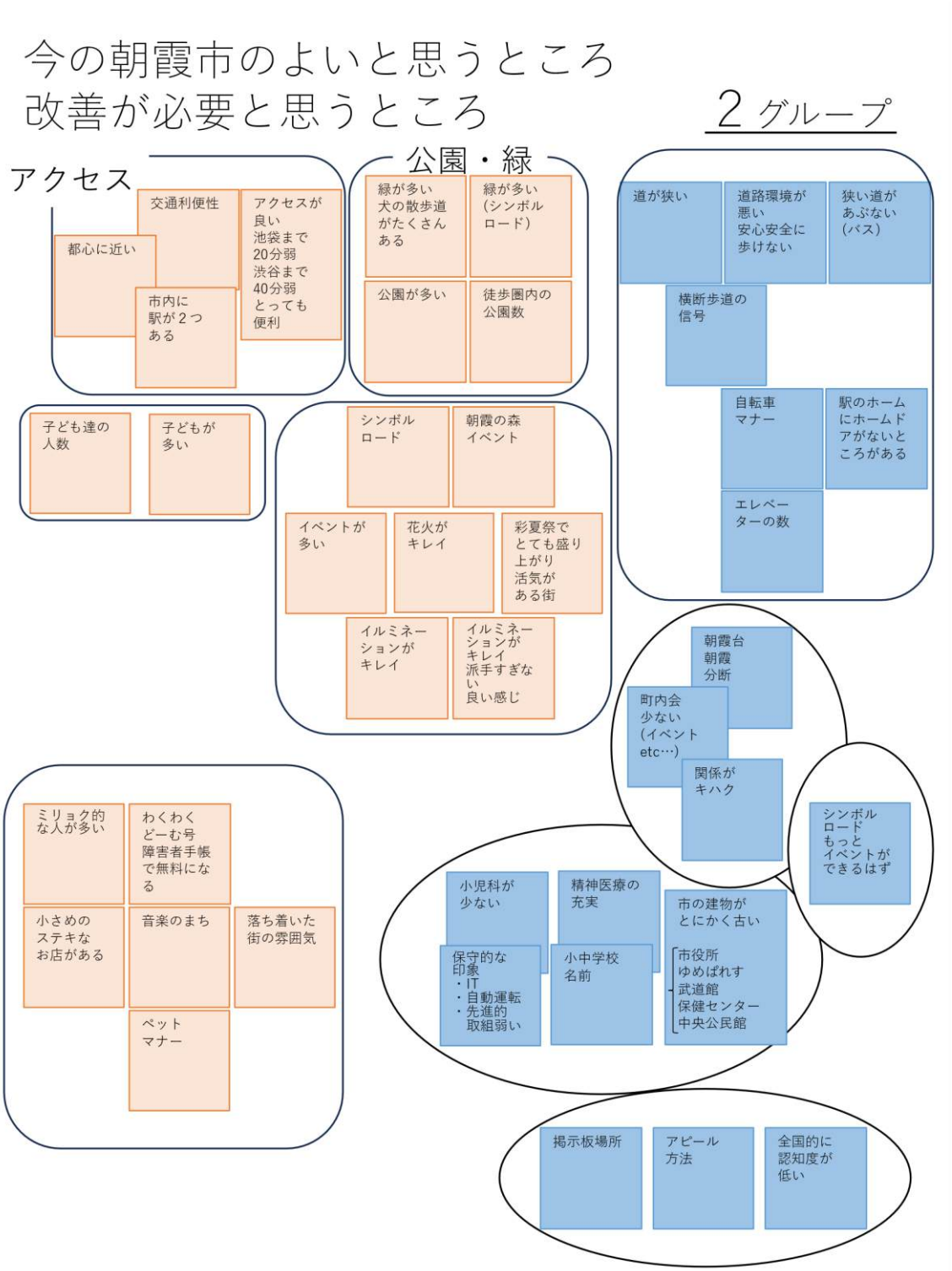
・旧憩いの湯跡地の活用など、市の PR ポイントを絞り、魅力の発信・周知。

・公契約条例を活用した障害のある人、母子家庭者、生活保護者等の就労促進。

・自治基本条例で地域活動する企業や市民を増やし、少ない職員や予算でも必要な社会政策を増やすことのできるまち。

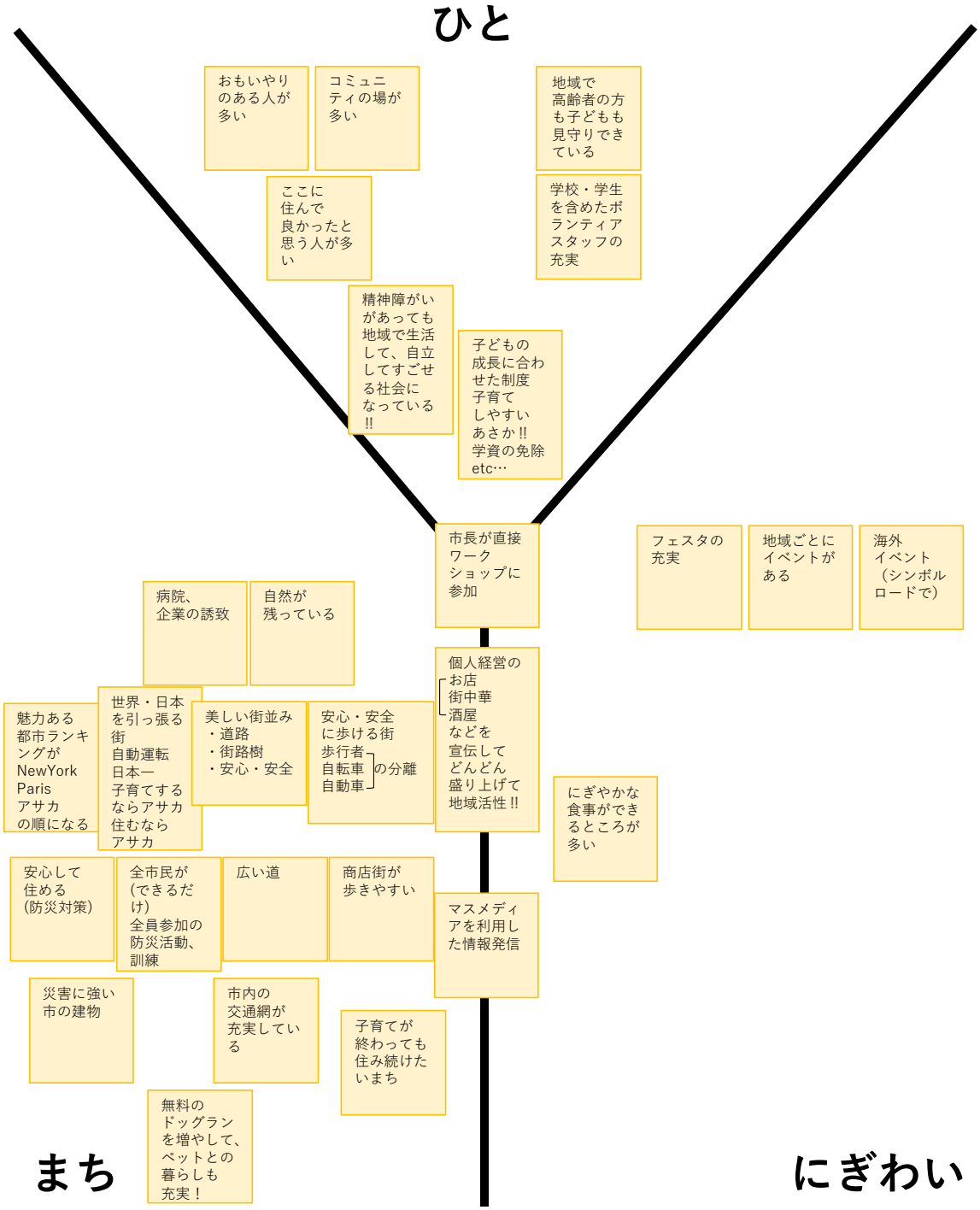
★グループ２

【２－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【２－２】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？　　２グループ



【２－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①アクセス：市内に駅が2つあり、都心に近く、交通の便が良い。

②公園・緑：公園や緑が多く、犬の散歩道がたくさんある。シンボルロードがある。

③文化・コミュニティ：イベントが多い。イルミネーションが綺麗。彩夏祭が盛り上がる。花火が綺麗。音楽のまち。小さめの素敵なお店がある。ペットマナーが良い。

④人：子どもが多い。魅力的な人が多い。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①交通：道が狭いなど道路環境が悪く安心安全に歩けない。駅にホームドアがない。自転車マナーが悪い。横断歩道に信号がないところがある。

②インフラ：朝霞と朝霞台が分断されている。市の建物が老朽化している。

③コミュニティ：町内会のイベント等が少ない。地域の関係性が希薄。シンボルロードでのイベントが少ない。保守的な印象がある（IT、自動運転、先進的取組等）。

④医療：精神医療が充実していない。小児科が少ない。

⑤市の PR：全国的に認知度が低い。アピール方法を検討する必要がある。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・コミュニティの場が多く、地域が子どもも高齢者も見守り、子育てしやすいまち。

・学校・学生を含めたボランティアスタッフが充実している。

・精神障害があっても地域で自立して生活できるまち。

・市長が直接ワークショップに参加する。

【まちに関するもの】

・市内の交通網が充実し、道が広く、街路樹があり、安心安全に歩ける美しい街並み。

・全市民が参加する防災活動の実施や、市の建物を災害に強いものにし、防災対策の取られた安心して住めるまち。

・子育てが終わっても住み続けたいまち。

・自然が残っている。

・マスメディアを利用した情報発信を行う。魅力ある都市ランキングをあげ、世界・日本を引っ張るまち。病院や企業の誘致。

・無料のドッグランを増やして、ペットとの暮らしも充実。

【にぎわいに関するもの】

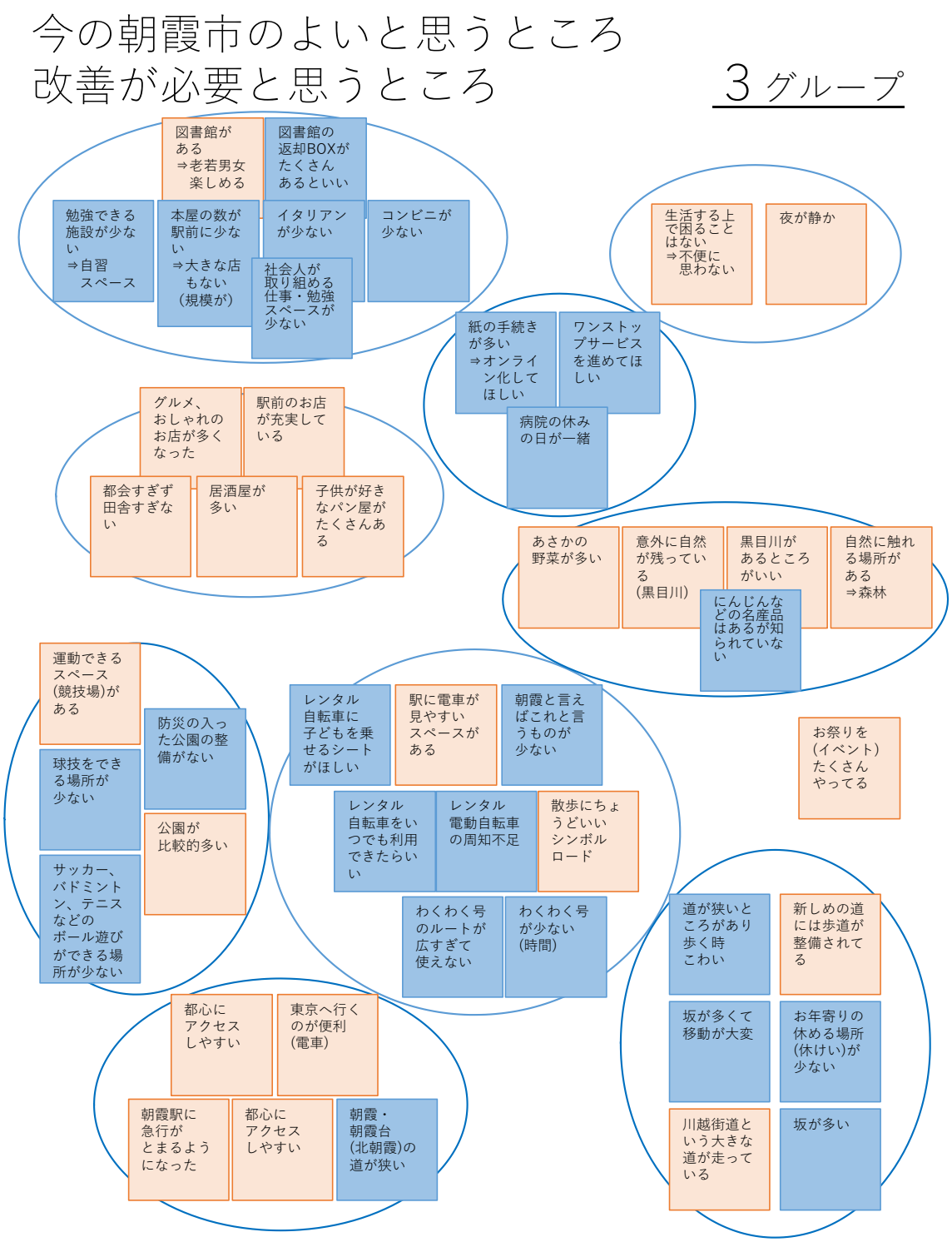
・外国人主催の海外イベントをシンボルロードで開催する。

・地域ごとにイベントがあるなど、フェスタの充実したまち。

・個人経営の飲食店を宣伝し、地域活性化し、賑やかに食事のできる場所が多い。

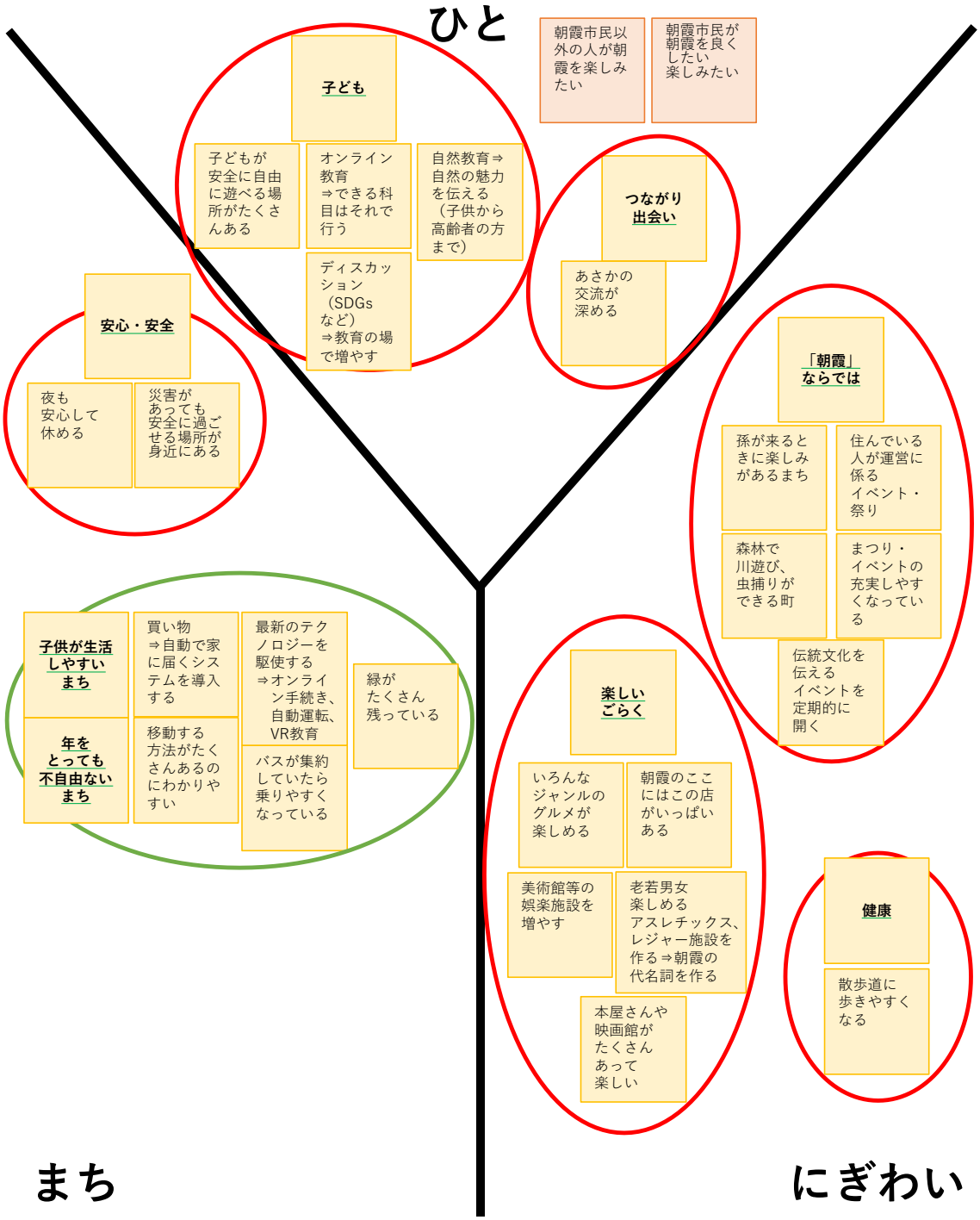
★グループ３

【３－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【３－２】未来の朝霞市はどんなまち？

未来の朝霞市はどんなまち？　　３グループ



【３－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①アクセス・道路：都心へのアクセスが良い。朝霞駅に急行が止まる。新しい道には、歩道が整備されている。川越街道が走っている。

②公園・自然：公園が多い。黒目川や森など自然が残っている。運動できるスペースがある。シンボルロードが散歩に良い。

③店舗の充実：駅前のお店が充実している。グルメ・おしゃれなお店が多い、居酒屋が多い、子どもが好きなパン屋が多い。

④文化：お祭り等イベントが多い。

⑤生活：生活する上で困ることはない。都会過ぎず田舎過ぎず。夜が静か。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①交通・移動：道が狭く歩くのが怖い。坂が多く移動が困難。わくわく号の本数が少なく、ルートが広くて使いにくい。お年寄りの休める場所が少ない。レンタル自転車が利用できないことがある。レンタル電動自転車の周知不足。レンタル自転車に子どもを乗せるシートがほしい。

②施設・病院：勉強や仕事ができるスペースが少ない。病院の休みの日が同じ。

③公園：公園が防災公園として整備されていない。球技ができる場所が少ない。

④行政手続き：紙の手続きが多い。ワンストップサービスになっていない。

⑤市の PR：朝霞と言えばこれというものが少ない。名産品のにんじんも知られていない。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・朝霞市民が朝霞を楽しみ、良くし、朝霞市民以外の人も朝霞を楽しめるまち。

・人との出会いやつながりを増やし、交流を深めることができるまち。

・子どもが安全に自由に遊べる場所がたくさんある。自然の魅力を伝える教育や、オンライン教育、ディスカッションなど、子どもへの教育を充実させる。

【まちに関するもの】

・夜も安心して休め、災害があっても安全に過ごせる場所が身近にあるまち。

・子どもが生活しやすく、年をとっても不自由のないまち（緑が多く残っている、買い物したものが自宅に届くシステムの導入、オンライン手続き等最新のテクノロジーの駆使、移動手段のわかりやすさ、集約されたバス等）

【にぎわいに関するもの】

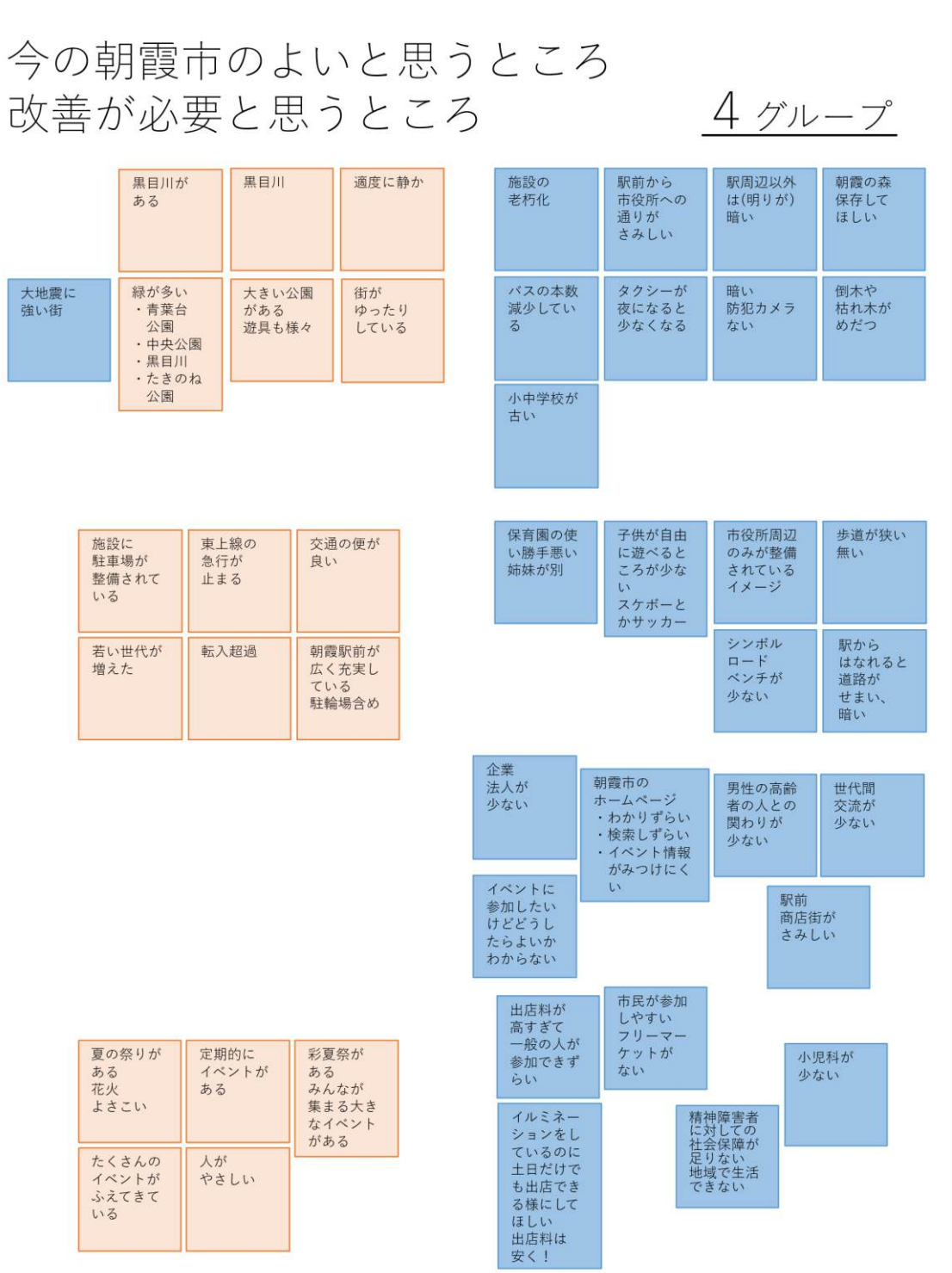
・川遊びや森林で虫取りができるまち。孫が来た時に楽しめるまち。

・市民が運営に携わる等、祭りやイベントの充実。伝統文化を伝えるイベントの開催。

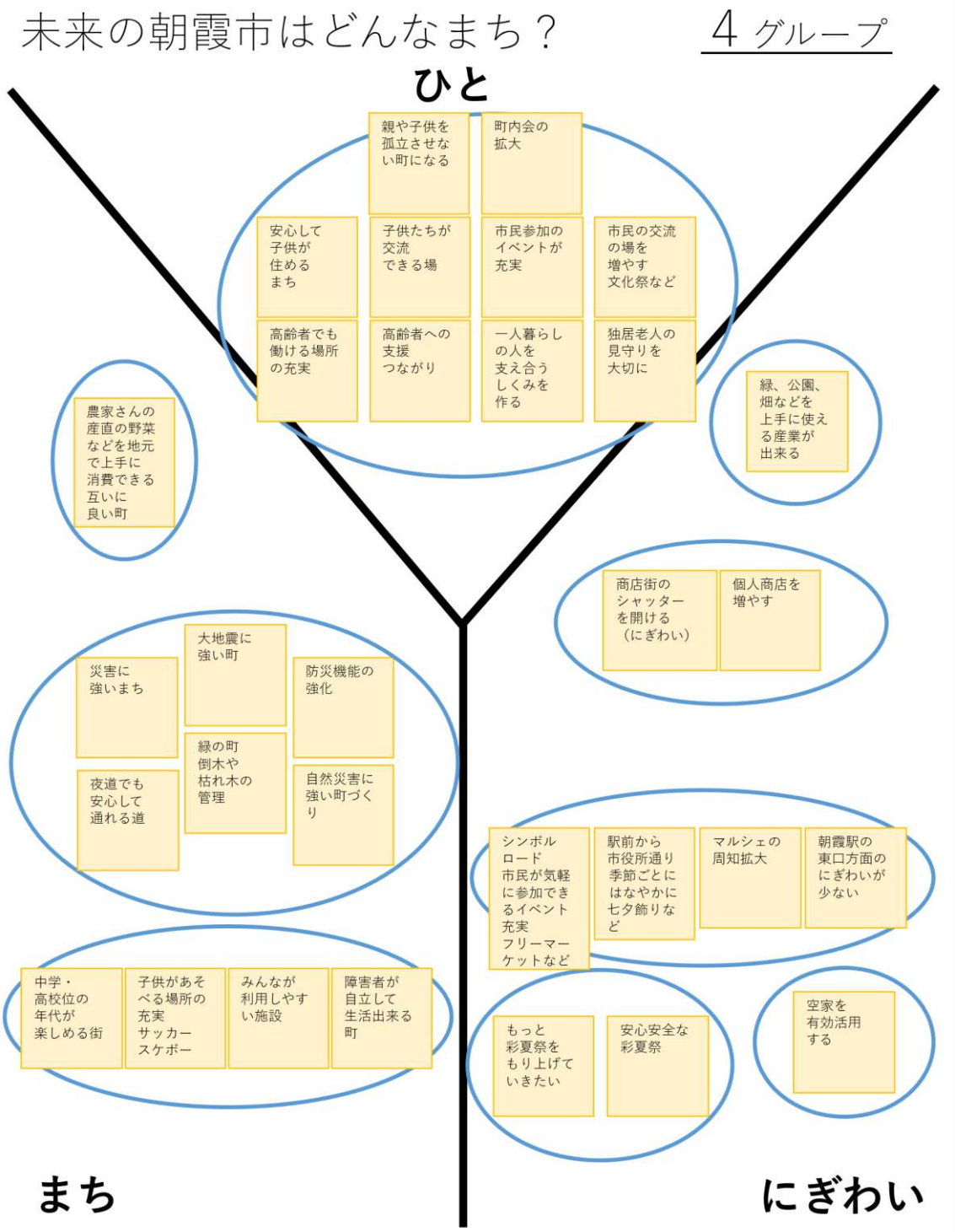
・娯楽のたくさんあるまち（いろんなジャンルのグルメ、老若男女が楽しめるアスレチック・レジャー施設、美術館、本屋、映画館）

★グループ４

【４－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【４－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【４－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①公園・自然：黒目川や緑、大きな公園がある。まちが適度に静かでゆったりしている。

②アクセス・駅前：交通の便が良い。東上線の急行が止まる。朝霞駅前が充実している。

③文化：彩夏祭をはじめとしたイベントが定期的にある。

④人：転入超過の状態である。若い世代が増えた。人が優しい。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①街並み：駅周辺以外は道路が狭いし暗い。防犯カメラがない。歩道が狭い・ない。駅前から市役所への通りが寂しい。市役所周辺のみが整備されている。倒木や枯れ木が目立つ。

②施設・公園：小中学校や施設の老朽化。子どもが自由に遊べる公園が少ない。

③移動：バスの本数が減少している。タクシーが夜になると少ない。

④交流：世代間交流が少ない。男性高齢者との関りが少ない。

⑤イベント：イベントの出展料が高い。市民が参加しやすいフリーマーケットがない。

⑥医療・福祉：小児科が少ない。精神障害者に対しての社会保障が不足している。

⑦情報提供：市のホームページがわかりづらい。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・市民参加のイベントが充実して、市民の交流の場が増える。

・親や子どもを孤立させず、安心して子どもが住め、交流できる場のあるまち。

・特に一人暮らしの高齢者を見守り、支え合う仕組みをつくる。

・高齢者でも働ける場所の充実。

【まちに関するもの】

・防災機能を強化し、自然災害に強いまち。

・倒木や枯れ木の管理がされている緑のまち。

・子どもが遊べる（サッカーやスケボー）場所が充実し、中高生も楽しめるまち。

・みんなが利用しやすい施設がある。

・夜でも安心して帰れる道。

・障害のある人が自立して生活できるまち。

・農家の産直野菜を地元で消費できる地産地消のまち。

【にぎわいに関するもの】

・緑、公園、畑などを上手に使える産業ができる。

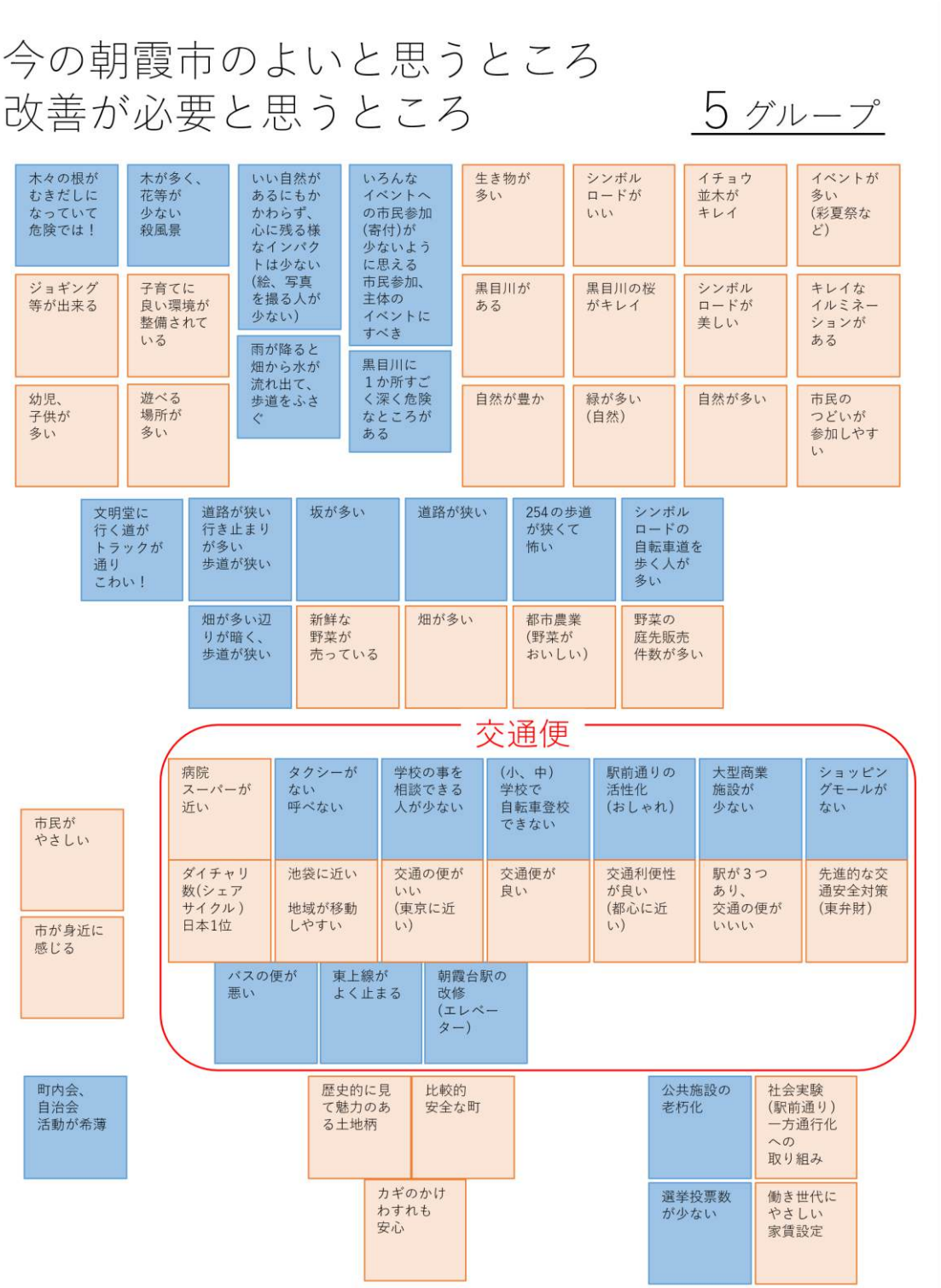
・彩夏祭をより盛り上げる。

・個人商店を増やす。朝霞駅東口方面の賑わいを増やす。シンボルロードでイベントの充実。

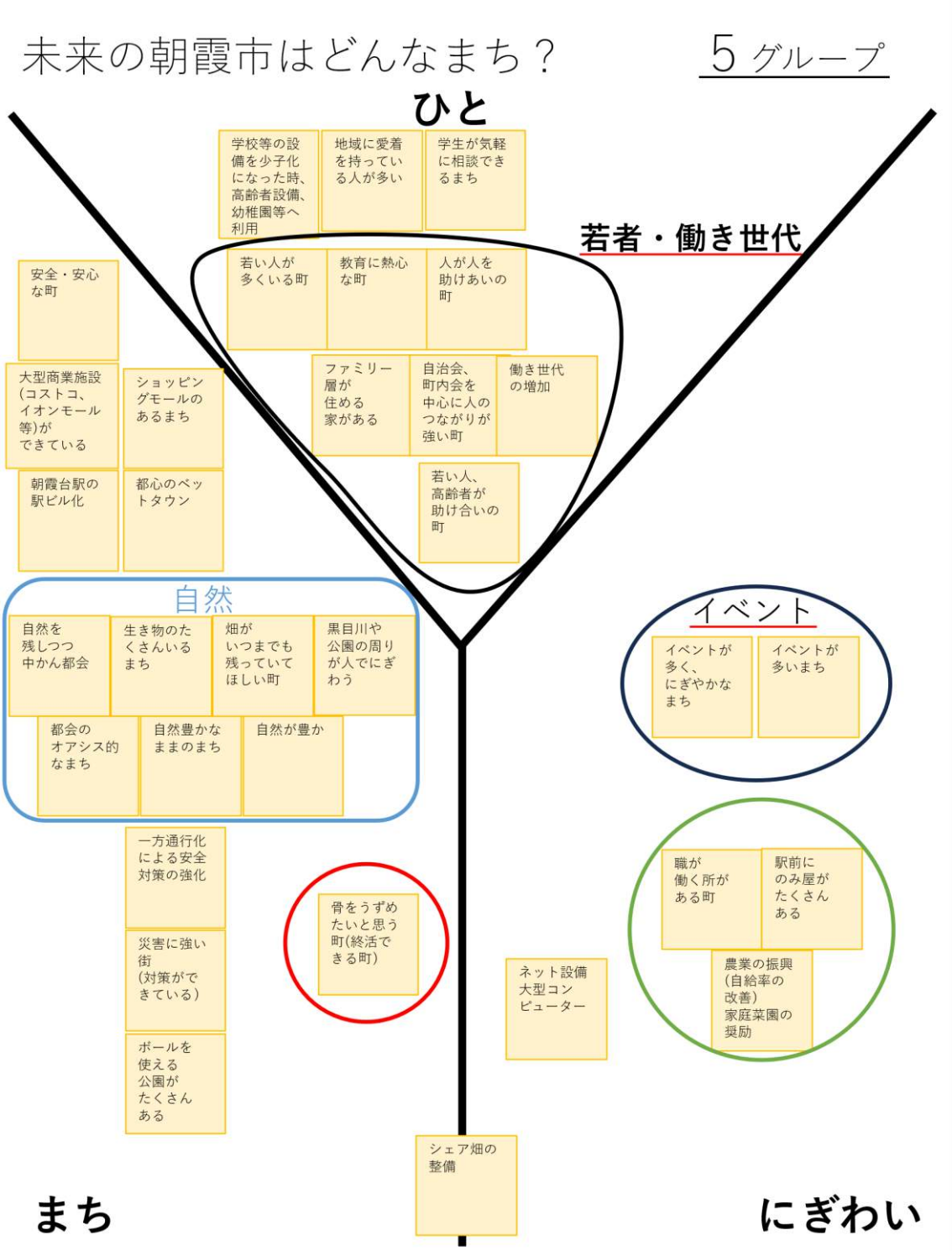
・空き家を有効活用する。

★グループ５

【５－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【５－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【５－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①公園・自然：黒目川やイチョウ並木があり、生き物も多く、自然が豊か。遊べる場所が多い。子育てに良い環境が整備されている。シンボルロードが良い。

②アクセス・移動：交通の便が良い。病院やスーパーが近い。シェアサイクル数日本1位。

③農業：新鮮でおいしい野菜が販売されている。畑が多い。野菜の庭先販売件数が多い。

④イベント：彩夏祭やイルミネーションがある。

⑤人・コミュニティ：市民が優しい。市が身近に感じる。

⑥その他：比較的安全なまち。働き世代に優しい家賃設定。駅前通り一方通行化への取組。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①交通・道路・移動：道路や歩道が狭い。坂が多い。畑が多く辺りが暗い。電車がよく止まる。バスの便が悪い。タクシーがない。小中学校に自転車登校できない。

②公共・民間施設：公共施設の老朽化。ショッピングモール/大型商業施設がない。

③自然：木々の根がむき出しになっていて危ない。木が多く花が少なく殺風景。自然はあるものの心に残るようなインパクトが少ない。雨が降ると畑から水が流れ出て歩道をふさいでいる。

④イベント：イベントへの市民参加が少ない。市民主体のイベントにするべき。

⑤その他：町内会・自治会活動が希薄。選挙の投票数が少ない。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・自治会、町内会を中心に人のつながりが強いまち。若い人、高齢者が助け合い、地域に愛着を持っている人が多いまち。

・若い人、働き世代の多いまち。ファミリー層が住める家がある。

・教育に熱心。学生が気軽に相談できるまち。

【まちに関するもの】

・ボールで遊べる公園がたくさんある。

・自然豊かなままで、黒目川や公園の周りで人がにぎわうまち。

・災害に強いまち。一方通行化による安全対策の強化。

・大型商業施設ができたり、朝霞台駅が駅ビル化したりする。

・廃校になった学校等の設備を高齢者設備や幼稚園等へ利用する。

・死ぬまで暮らしたいと思えるまち。終活できるまち。

【にぎわいに関するもの】

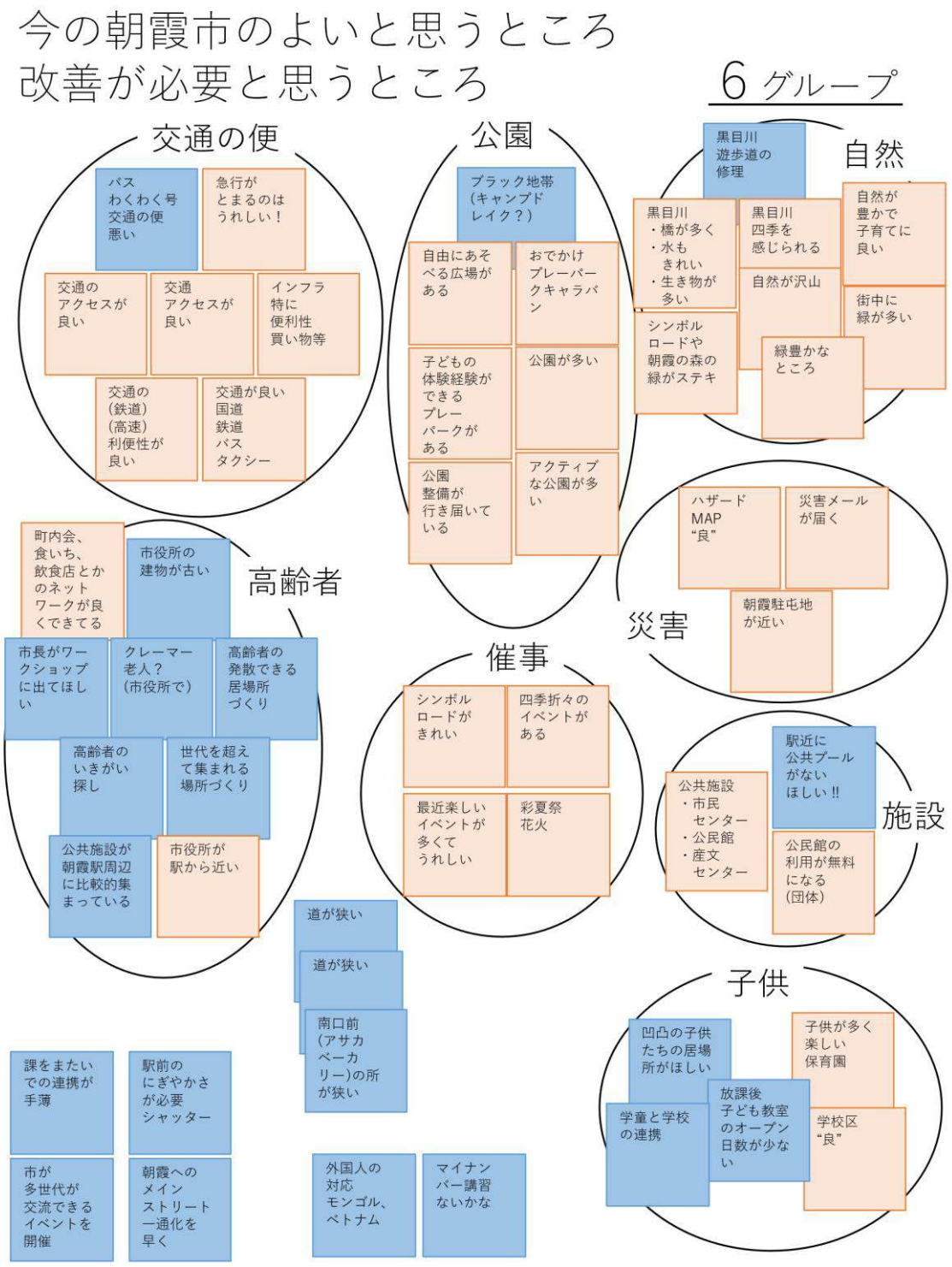
・イベントが多く賑やかなまち。駅前に飲み屋がたくさんあるまち。

・働く場があるまち。

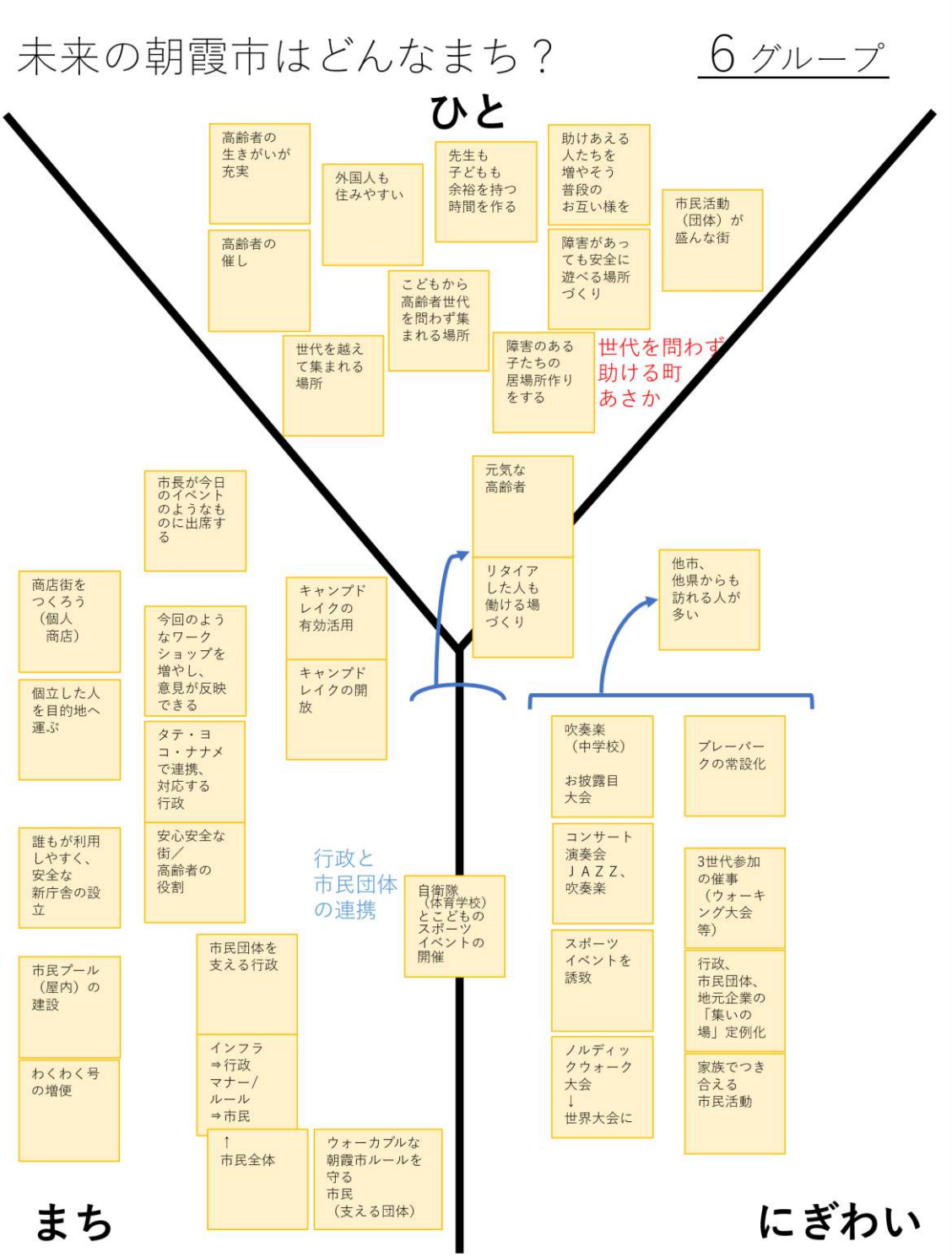
・家庭菜園を奨励するなど、農業の盛んなまち。シェア畑の整備。

★グループ６

【６－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【６－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【６－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①公園・自然：自由に遊べる広場がある。子どもが体験できるプレーパークがある。公園が多い。公園整備が行き届いている。黒目川など自然が豊かで子育てに良い。街中に緑が多い。

②交通の便：交通アクセスが良い（国道、鉄道、バス、タクシー）。急行が止まる。

③イベント：四季折々のイベントがある。彩夏祭の花火。シンボルロードが綺麗。

④災害：ハザードマップが良い。災害メールが届く。朝霞駐屯地が近い。

⑤子ども：子どもが多く、楽しい保育園が多い。

⑥施設：公民館の団体利用が無料。市役所が駅から近い。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①施設・インフラ：公共施設が朝霞駅周辺に集まっている。市役所の建物の老朽化。駅前が賑わっていない。

②交通・道路：わくわく号の交通の便が悪い。道が狭い。特に朝霞駅南口前。黒目川の遊歩道の修理。朝霞へのメインストリート一方通行化が実施できていない。

③居場所づくり：高齢者や多世代が交流できるイベント・居場所づくり。高齢者の生き甲斐探し。

④子ども：特別な配慮の必要な子ども達の居場所がない。学童と学校の連携不足。放課後子ども教室のオープン日数が少ない。

⑤その他：課をまたいでの連携が手薄。外国人の対応。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・世代を超えて集まれる場所がある。障害のある子ども達が安全に遊べる居場所がある。

・高齢者への催しものがあるなど、高齢者が生きがいをもって元気に暮らせるまち。

・市民活動が盛んで、助け合える人たちを増やす。

・外国人も住みやすいまち。

【まちに関するもの】

・商店街を作る。安全な新庁舎の設立。屋内市民プールの建設。キャンプドレイクの有効活用。

・高齢者がリタイア後も働ける場づくり等、高齢者の役割があるまち。

・縦・横・斜めで連携・対応する行政。市民の意見を聞くワークショップ（市長も出席）を増やす。市民団体を支える行政。

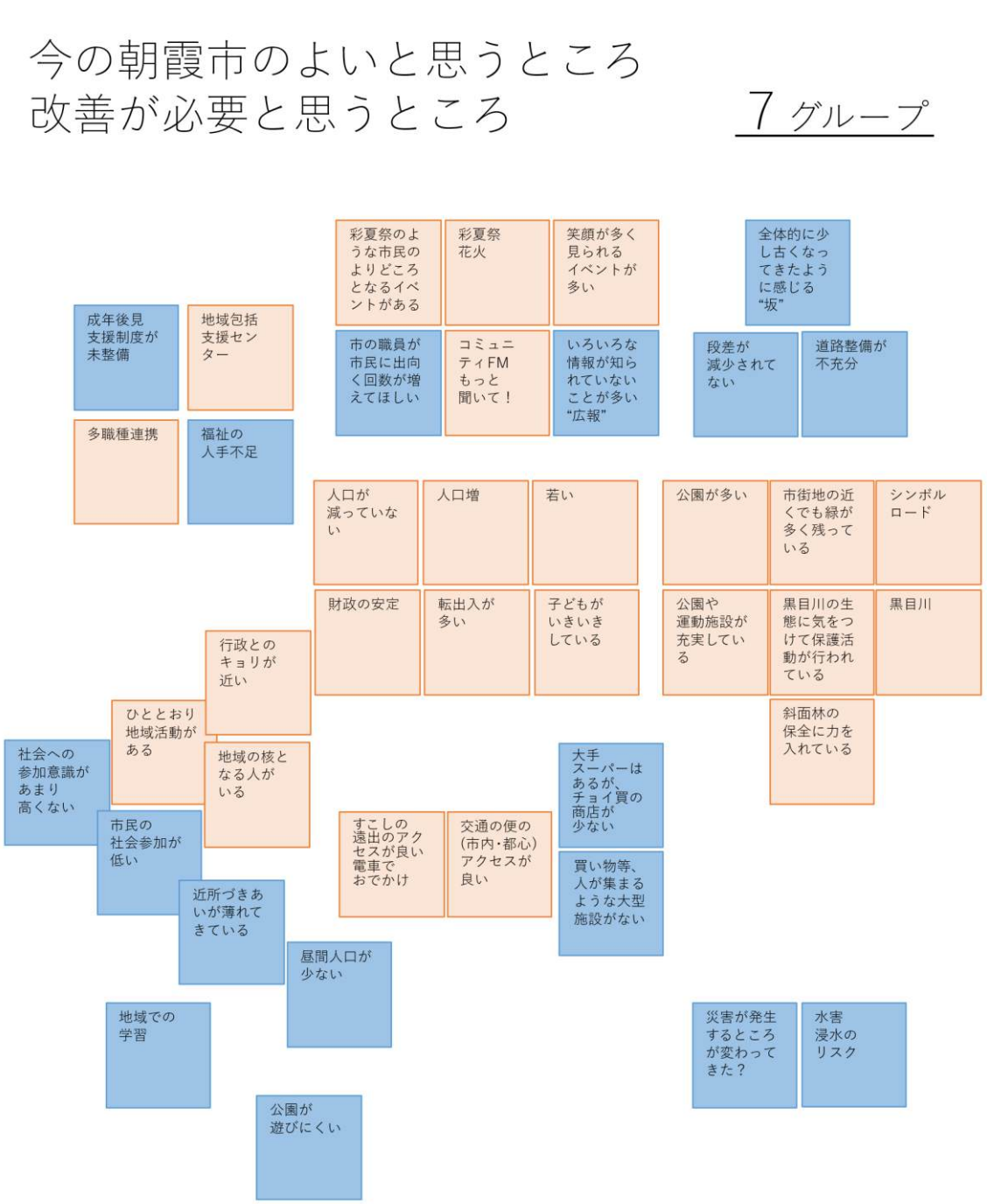
【にぎわいに関するもの】

・他市、他県からも人が訪れるイベントの開催（吹奏楽お披露目会、コンサート、スポーツイベント、ノルディックウォーク大会、プレーパークの常設化）

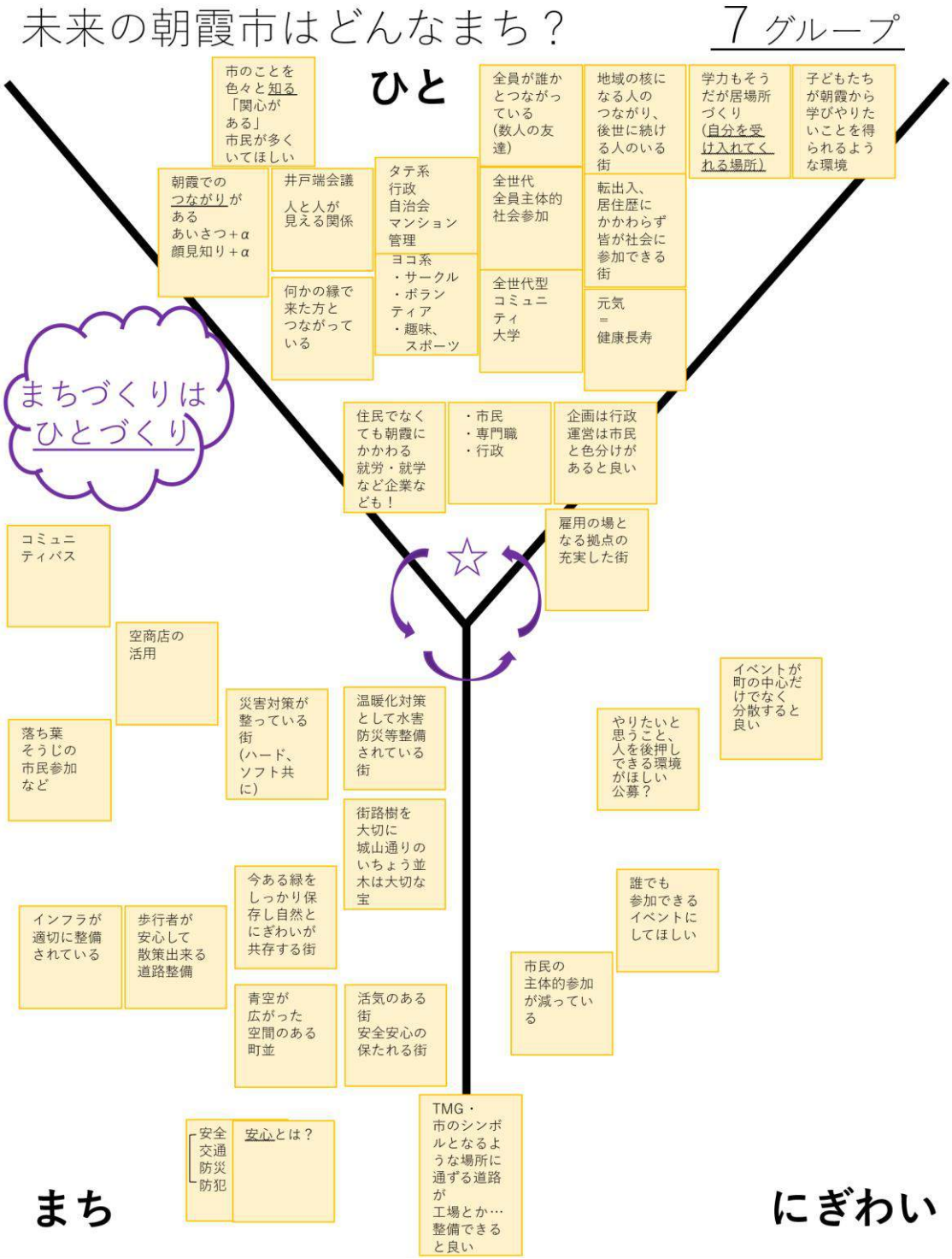
・3世代参加のイベントの実施。行政、市民団体、地元企業の集いの場の定例化。家族で参加できる市民活動の実施。自衛隊と子どものスポーツイベントの開催。

★グループ７

【７－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【７－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【７－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①公園・自然：公園や運動施設が充実している。市街地でも緑が多く残っている。黒目川があり、生態に気を付けて保護活動が行われている。斜面林の保全に力を入れている。

②イベント：彩夏祭のような市民のよりどころとなるイベントがある。花火がある。

③人口・市民：人口が増えている。転出入が多い。若い。子どもが生き生きしている。

④行政：行政との距離が近い。財政が安定している。多職種連携が取れている。

⑤地域：地域活動がある。地域の核となる人がいる。

⑥交通の便：交通の便がいい（市内・都心まで）。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①道路：道路整備が不十分（段差が減少されていない。古くなってきている坂。）。

②行政：市の職員が市民に出向く回数が少ない、広報が不十分、成年後見支援制度が未整備。

③地域：近所付き合いが薄れてきている。市民の社会参加が低い/意識が低い。

④公園：公園が遊びにくい。

⑤災害：水害・浸水のリスクがある。

⑥その他：昼間の人口が少ない。大型施設がない。福祉の人出不足。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・全世代の全員が誰かとつながりがあり、人と人が見える関係にあり、市民による主体的な社会参加の盛んなまち。地域の核になる人のつながりがある。落ち葉掃除の市民参加など。

・行政や自治会などのタテ系のつながりと、サークル、ボランティア、趣味、スポーツなどヨコ系のつながりがある。

・自分を受け入れてくれる居場所があるまち。

・子ども達が朝霞から学びやりたいことが得られるような環境がある。

・企画は行政で、運営は市民が行うなど、連携できるまち。

・雇用の場となる拠点の充実したまち。

【まちに関するもの】

・災害対策が整っており、道路やインフラが適切に整備され、安心安全なまち。

・今ある緑・街路樹を保存し、自然とにぎわいが共存するまち。青空が広がった空間のあるまち。

・空き商店が活用される。活気のあるまち。

・朝霞 TMG や市のシンボルとなるような場所に通ずる道路が整備される。

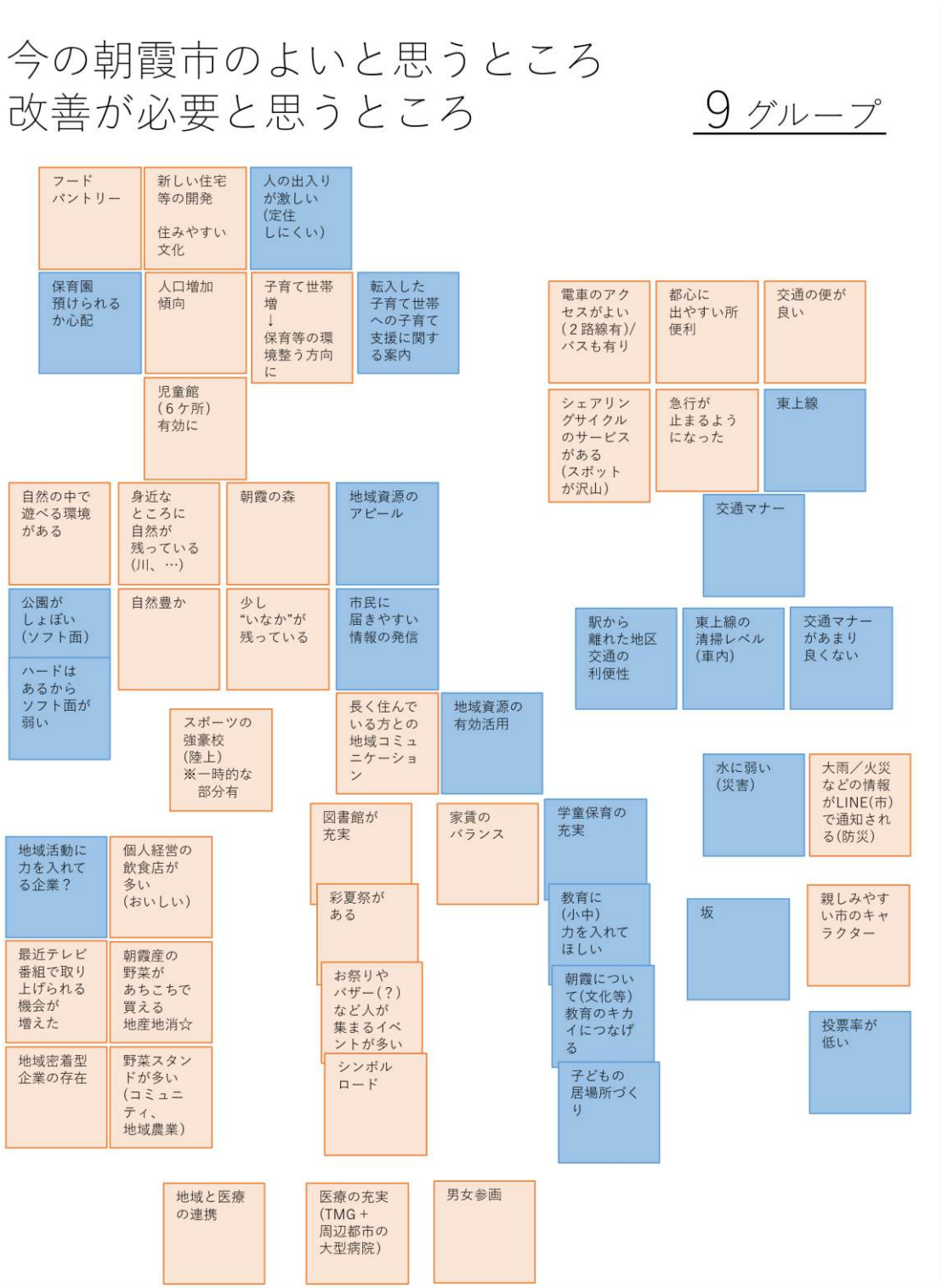
【にぎわいに関するもの】

・イベントに誰でも参加でき、市の中心外にも分散されて開催される。市民の主体的参加がある。

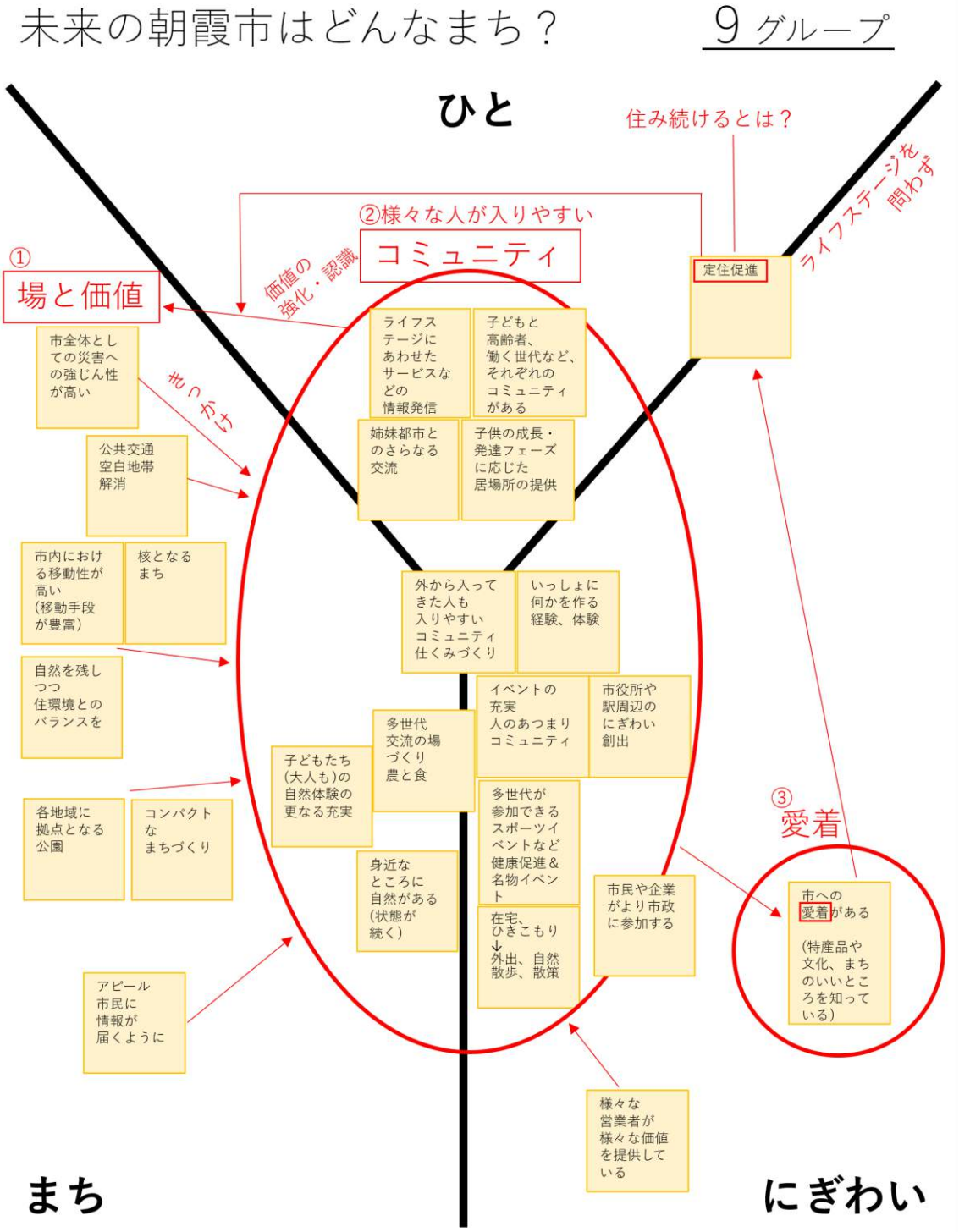
・やりたいと思うこと・人を後押しできる環境。

★グループ９

【９－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【９－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【９－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①交通・移動：交通の便が良い。急行が止まる。2路線ある。シェアサイクルのサービスがある。

②自然：身近なところに自然が残っている。自然の中で遊べる環境がある。朝霞の森がある。

③イベント：彩夏祭などの祭りやバザーなど人が集まるイベントが多い。シンボルロードがある。

④人口・住宅：人口・子育て世帯が増えている。家賃のバランスが良い。

⑤行政・施設：親しみやすい市キャラクター。防災情報が LINE で通知。図書館や児童館が充実。

⑥医療：医療が充実している。地域と医療の連携が取れている。

⑦地域産業：地域密着型の企業がある。朝霞産の野菜が買える。野菜スタンドが多い。

⑧その他：スポーツ強豪校がある。個人経営の飲食店が多い。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①交通・道路：駅から離れた地区の交通の利便性は良くない。交通マナーが良くない。坂が多い。

②保育・教育・子ども：保育園に預けられるか心配。学童保育が充実していない。小中の教育に力を入れてほしい。朝霞について教育する機会が不足している。子どもの居場所が必要。

③情報提供・発信：市民に届きやすい情報の発信がなされていない。地域資源のアピール不足。転入した子育て世帯への子育て支援に関する案内不足。

④公園：ハード面はあるが、ソフト面が弱い。

⑤その他：人の出入りが多く定住しにくい。水害に弱い。投票率が低い。地域資源の有効活用。

（3）未来の朝霞市

場と価値を提供し、様々な人が入りやすいコミュニティがあり、市に愛着が生まれ、定住を目指す。

【ひとに関するもの】

・子ども・働き世代・高齢者のそれぞれにコミュニティ（外から入ってきた人も入りやすい）がある。

・子どもの成長・発達段階に応じた居場所がある。

・姉妹都市とのさらなる交流がある。

【まちに関するもの】

・公共交通の空白地帯を解消し、市内における移動手段が豊富にある。コンパクトなまちづくり。

・身近に自然を残しつつ、住環境とのバランスが取れている。自然体験を更に充実させる。

・災害への強靭性が高い。

・市民に情報が届くようにアピールする。

【にぎわいに関するもの】

・多世代が参加できるスポーツ、健康促進、名物イベントの開催。一緒に何かを作る経験・体験。

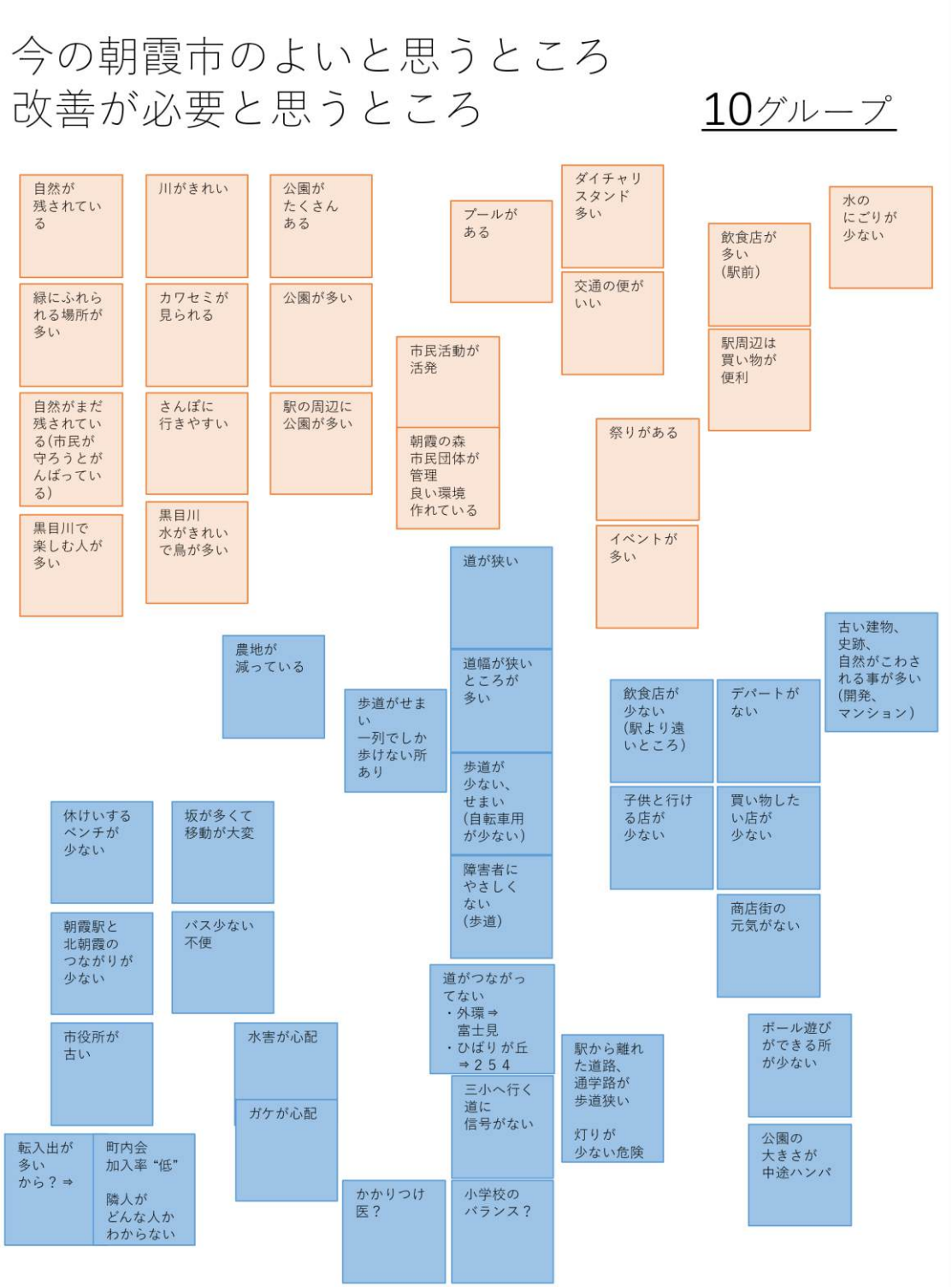
・市役所や駅周辺のにぎわいの創出。

・市民や企業がより市政に参加する。

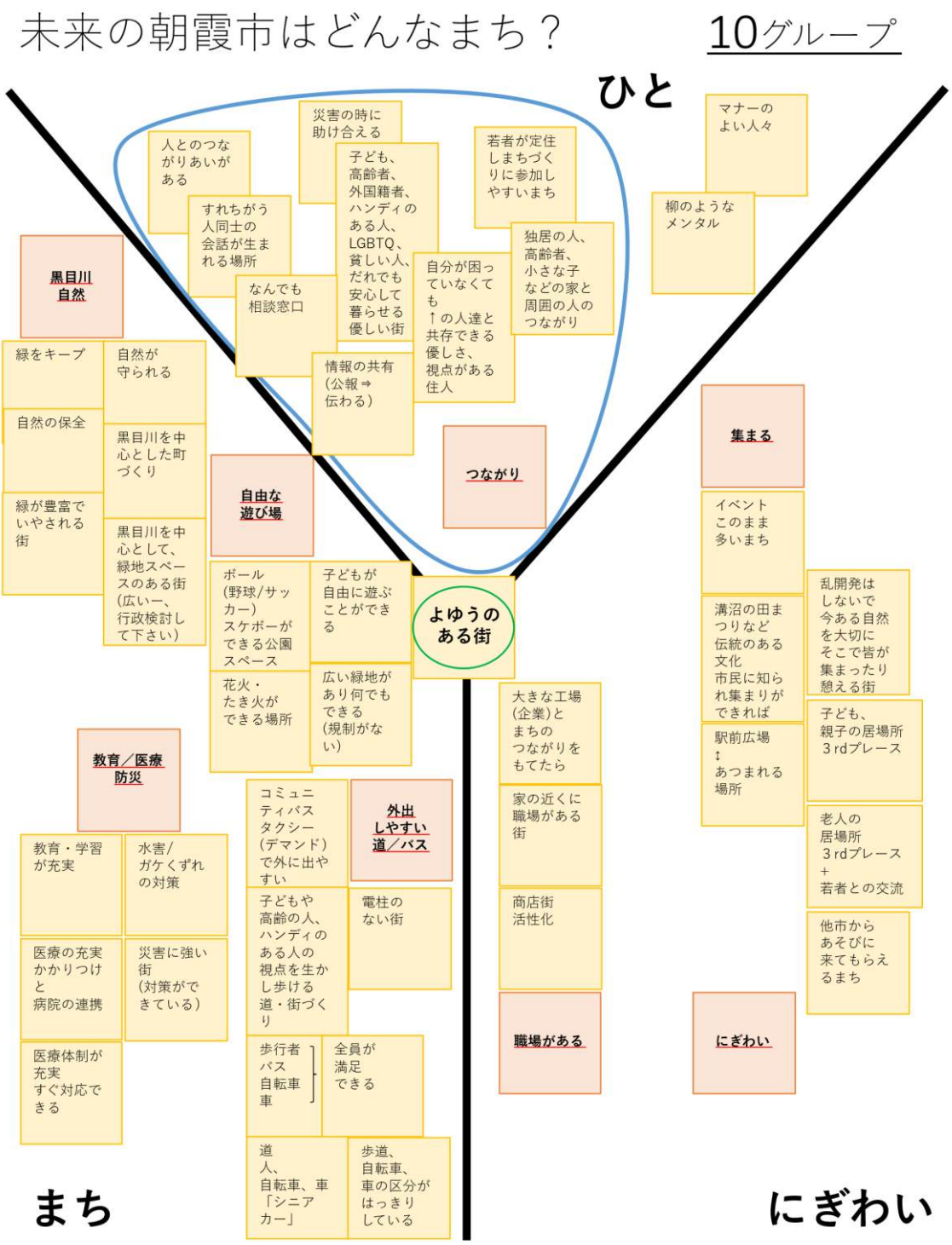
・様々な自営業者が様々な価値を提供する。

★グループ 10

【10－１】今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ



【10－２】未来の朝霞市はどんなまち？



【10－３】話し合いの要点

（1）今の朝霞市のよいと思うところ

①自然・公園：公園が多い。黒目川が綺麗で鳥が多い。自然が残されている。

②イベント：お祭り、イベントが多い。

③交通・移動：交通の便がいい。ダイチャリスタンドが多い。

④駅前の利便性：駅前に飲食店が多い。駅周辺は買い物が便利。

⑤その他：プールがある。市民活動が活発。

（2）今の朝霞市の改善が必要と思うところ

①交通・道路：通学路を含め、道・歩道が狭い。道がつながっていない。信号がない。坂が多い。バスが少なくて不便。道路に明かりが少なく危険。朝霞駅と北朝霞駅のつながりが少ない。

②土地：農地が減っている。崖があって危ない。水害が心配。

③インフラ・施設：市役所が古い。古い建物史跡が開発などで壊されることが多い。

④店舗：デパートがない。駅より遠いところに飲食店が少ない。子どもといける店が少ない。商店街が元気がない。買い物したい店が少ない。

⑤地域：町内会の加入率が低く、隣人がどんな人かわからない。転出入が多い。

⑥公園：ボール遊びができる所が少ない。公園の大きさが中途半端。

（3）未来の朝霞市

【ひとに関するもの】

・若者が定住し、まちづくりに参加しやすいまち。

・すれ違う人同士の会話が生まれ、人とのつながりがあるまち。

・社会的弱者を含め、誰でも安心して暮らせる優しいまち。自分が困っていなくても、共存できる優しさ・視点のある住人がいる。災害の時に助け合える。

【まちに関するもの】

・黒目川を中心として、自然を守り、緑が豊富で癒されるまち。

・子どもが自由に遊ぶ（ボール、スケボー、花火）ことができるまち。

・子ども、高齢者、障害のある人の視点で、歩きやすいまち。コミュニティバス等で外出しやすいまち。

・災害（特に水害や崖崩れ）に強いまち。

・かかりつけ病院との連携等、医療体制の充実。

・教育や学習が充実しているまち。

【にぎわいに関するもの】

・イベントや集まれる場所が多いまち。伝統文化の伝承や、今の自然を残してそこで憩えるまち。

・子ども、親子、高齢者の居場所や高齢者と若者の交流の場がある。

・他市から遊びに来てもらえるまち。

・大きな工場（企業）とつながりをもつ。家の近くに職場がある。商店街の活性化。

２－３．当日の様子

9

10

「あさかの未来を話そう」

市民ワークショップ
「あさかの未来を話そう」

「あさかの未来を話そう」

３．総括

まず、「朝霞市のよいところ、改善が必要なところ」を話し合ったところ、各グループで共通して見られた、よいところに関する意見として、都心に近く交通の便がよいこと、公園が多いこと、黒目川や朝霞の森などがあること、彩夏祭をはじめとしたイベントが多いことなどの意見が多く挙げられた。

改善が必要なところに関する意見としては、道幅が狭く歩きにくい、坂道の移動が困難、バス交通の見直し、公共施設の老朽化、自由な遊び場の不足、全国的な認知度が低いことなどが挙げられた。

続いて、「朝霞市の未来」について話し合ったところ、

《ひと》については、

・多様な交流やコミュニティがある
・若者やファミリー層が住みやすい
・子どもや高齢者、外国人など誰もが住みやすい

などが挙げられた。

また、《まち》については、

・歩きやすい道の整備
・災害対策
・緑を残す
・多様な遊び場
・自然との共存

などが挙げられた。

さらに、《にぎわい》については、

・買い物や食事ができる場の充実
・多様なイベントや市民の主体的関わり
・市の魅力発信・PR

などが挙げられた。

総じて、交通利便性、自然の豊かさ、イベントに関する評価は高く、それらを未来に受け継ぎながら、今後は、ひとのつながりや交流によって誰もが住みやすくし、まちをより強く、安全で快適なものとするとともに、市内のにぎわいを増し、市内外に発信していくことが重要と考えられる。

４．資料

資料①　募集チラシ

市民ワークショップ「あさかの未来を話そう」参加申込書

ふりがな			
氏　名			
連絡先	（　　）　　－ ※日中、連絡が取れる電話番号の記載をお願いします（携帯電話可）		
託　児 ※希望される方は、利用人数と年齢をご記入ください。	（利用人数　　人、年齢　　歳、　　歳） ※託児は1歳～就学前のお子様が利用できます。 ※別途、当日の持ち物等についてご連絡します。	手話通訳 ※希望される方は○をつけてください。	必要

内　　容

令和8年度（2026年度）から始まる「第6次朝霞市総合計画」を作るため、朝霞市をどんなまちにしていきたいかを参加者の皆さんで一緒に考える市民ワークショップを開催します。
数名ずつのグループに分かれ、意見交換をしながら「朝霞市のよいと思うところ」や「未来の朝霞市」などについて考えます。参加費は無料です。

開催日時・会場

日時　令和6年1月20日（土）　午後1時30分～午後5時

会場　ゆめぱれす（朝霞市民会館）新館2階　高砂の間
朝霞市本町1丁目26番1号

応募方法

下記のいずれかの方法でご応募ください。

①郵送　裏面の参加申込書に記入し、下記問い合わせ先へ郵送してください。
②窓口　裏面の参加申込書に記入し、朝霞市役所政策企画課（3階35番）へお持ちください。
③FAX　裏面の参加申込書に記入し、下記問い合わせ先へ送信してください。
④Web　右の二次元コードまたは市ホームページから、お申込みフォームへアクセスし、お申込みください。

申込締切：令和５年１２月２５日（月）※郵送の場合は必着

●座席に余裕がある場合は当日参加も可能です。
直接会場へお越しください。
※託児・手話通訳を希望する場合は令和５年１２月２５日（月）までにお申込みください。

問い合わせ先

朝霞市役所　市長公室　政策企画課
〒351-8501　朝霞市本町1丁目1番1号
TEL　：048-463-3089（直通）
FAX　：048-467-0770
E-mail：seisaku_kikaku@city.asaka.lg.jp

小中学生の意見聴取に関する報告書

令和６年（２０２４年）３月

朝霞市

目次

Ⅰ．調査概要 1
１.調査の目的 1
２．調査の方法 1
３．調査項目 1
４．回収結果 1
Ⅱ．調査結果 2
問１　朝霞市の好きなところ・朝霞市への要望について..... 2
問２　10～20 年後の朝霞市での過ごし方について 5
総括 8

Ⅰ．調査概要

１.調査の目的

この小中学生の意見聴取は、第6次朝霞市総合計画を策定するにあたって、まちづくりに対する市内小中学生の意向を把握し、基礎資料として活用するために行ったものである。

２．調査の方法

① 調査対象　　市内小学校10校の5年生及び市内中学校5校の2年生
② 対象者数　　2,385人（令和6年1月時点）
③ 調査方法　　GIGA タブレットを通じたアンケートの配信・回収
（Zoho Survey を使用）
④ 調査期間　　令和6年1月15日配布、令和6年1月22日締切

３．調査項目

① あなたの考える、朝霞市の好きなところ、もっとこうなって欲しいと思うところ
② 10～20 年後、大人になったあなたは、朝霞市でどんなふうに過ごしたいか
（いずれも自由回答形式）

４．回収結果

① 調査票配布数　2,385 票
② 有効回収数　　1,381 票
③ 有効回収率　　57.9%

Ⅱ．調査結果

問１　朝霞市の好きなところ・朝霞市への要望について

「あなたの考える、朝霞市の好きなところ、もっとこうなって欲しいと思うところ」について、自由回答全体の傾向を把握するため、テキストマイニングを用いて回答結果を分析した。以下出典をもとに、テキストマイニングの一種である、いくつかの手法により分析した。

【出典】ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（https://textmining.userlocal.jp/）

（１）ワードクラウド分析

（上図の青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を示す）

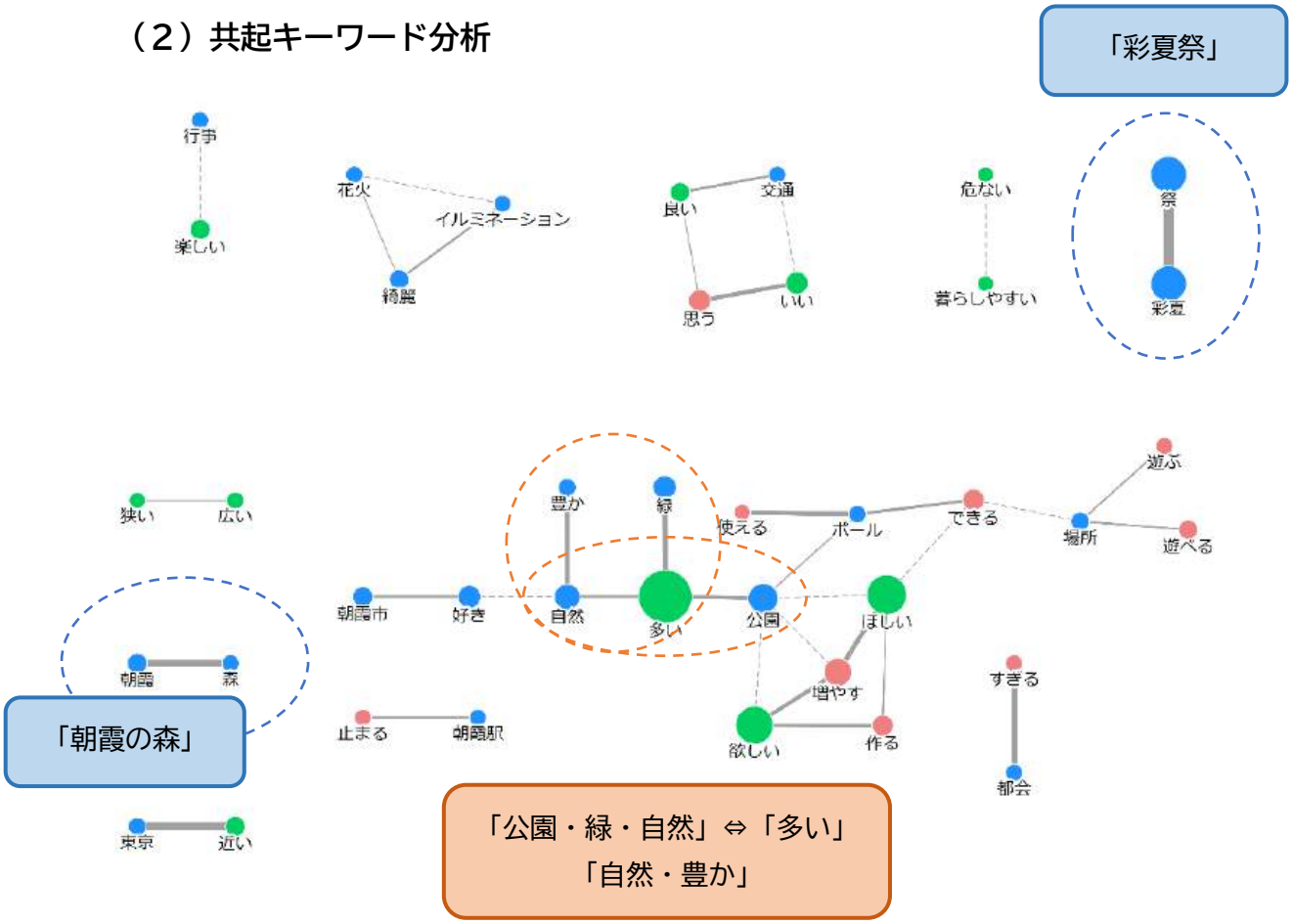
ワードクラウドとは、文章における単語の特性を視覚的に表現した図のことを指す。上図では、文字のサイズが大きいほど、その単語の文章における重要度や出現頻度が高いことを示す。

最も大きな単語は「彩夏」となっている。

次いで、名詞では「祭」「公園」「緑」「自然」「黒目川」「朝霞駅」などが大きい。「ショッピングモール」や「イルミネーション」も挙げられている。

動詞や形容詞は、名詞と関連付けて文章の末尾に記載され、出現頻度が高くなるため参考となるが、「多い」「欲しい（ほしい）」「増やす」が大きいほか、「遊べる」「住みやすい（暮らしやすい）」も挙げられている。

（2）共起キーワード分析



共起キーワードとは、文章中の出現頻度が高い単語のうち、よく一緒に使われている単語を程度の強さで判断し、線で結んだ図のこと。円の大きさは、出現頻度の高さを表し、円同士を結ぶ線の太さは円同士の結びつきの強さを表す。

結びつきの強いものとしては、「公園・緑・自然」と「多い」、「自然・豊か」、「東京・近い」が挙げられる。また、「彩夏祭」や「朝霞の森」も多い。

全体として、朝霞市の好きなところとしては、朝霞の森などの自然や緑、公園、彩夏祭などの行事に関する意見が多く挙げられ、「朝霞市・好き」という単語同士の結びつきからわかるように、朝霞市に対して肯定的な意見が多かった。一方で、公園を増やしてほしいといった、朝霞市に対する意見・要望も寄せられた。

（3）単語出現頻度

より具体的に自由記述回答の特徴を理解するため、出現頻度の高い上位30単語を下表にまとめた。回数の数え方については、当該単語が出現したことをもって1回とする。そのため、同一回答者の発言の中で繰り返し使用されている単語があった場合、複数回数えられていることに留意する。

順位	頻出単語	出現回数	順位	頻出単語	出現回数
1	欲しい（ほしい）	800	16	朝霞市	101
2	多い	644	17	朝霞	98
3	祭	442	18	綺麗	90
4	彩夏	436	19	楽しい	87
5	公園	308	20	駅	85
6	自然	221	21	近い	76
7	増やす	215	22	良い	72
8	緑	166	23	場所	69
9	好き	161	24	祭り	68
10	いい	121	25	遊べる	66
11	思う	118	26	お祭り	62
12	さい（さいかさい）	117	27	東京	57
13	イベント	111	28	豊か	56
14	できる	105	29	森	47
15	作る	102	30	施設	46

最頻出の単語は、「ほしい」で 800 回であり、次点で「多い」が 644 回、「祭」「彩夏」がいずれも 400 回以上であった。また上位 30 単語のうち、彩夏祭をはじめとした朝霞市の行事に関する単語の出現回数は 1,170 回、朝霞市の自然に関する単語の出現回数は、434 回であった。

以下、実際にどのように用いられたのか具体例を示す。

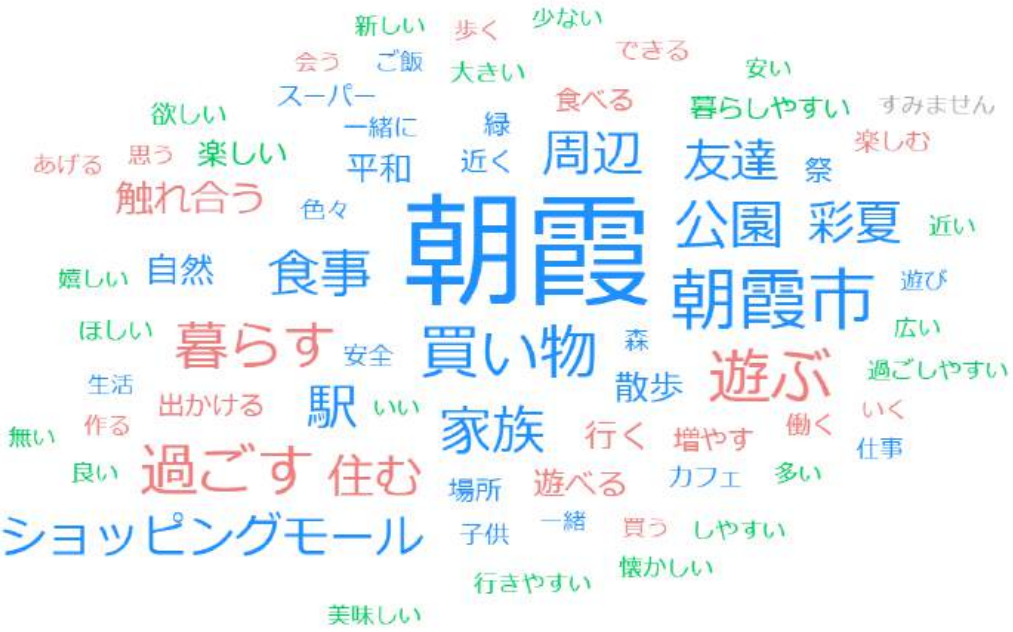
【原文例】

- 東京に行きやすいところ。田舎すぎず都会過ぎないところ。
- 東京に近くて交通が便利なところが良いと思う。
- 緑が多くて公園がたくさんある。
- 緑が多く、彩夏祭でも色々なあそびや食べ物があって楽しい。
- 毎年、イルミネーションがキレイで毎年少しずつ違う所がいい。
- 朝霞の森などの自然や工作に触れることができるところが好き。
- ボール使用可能の公園を増やしてほしい。
- ショッピングモールやゲームセンターなど長時間居られて遊べるところが欲しい。
- 本屋さんをもっと増やしてほしい。

問２　10～20 年後の朝霞市での過ごし方について

問 1 と同様に、「10～20 年後、大人になったあなたは、朝霞市でどんなふうに過ごしたいか」について、自由回答全体の傾向を把握するため、テキストマイニングを用いて回答結果を分析した。

（１）ワードクラウド分析

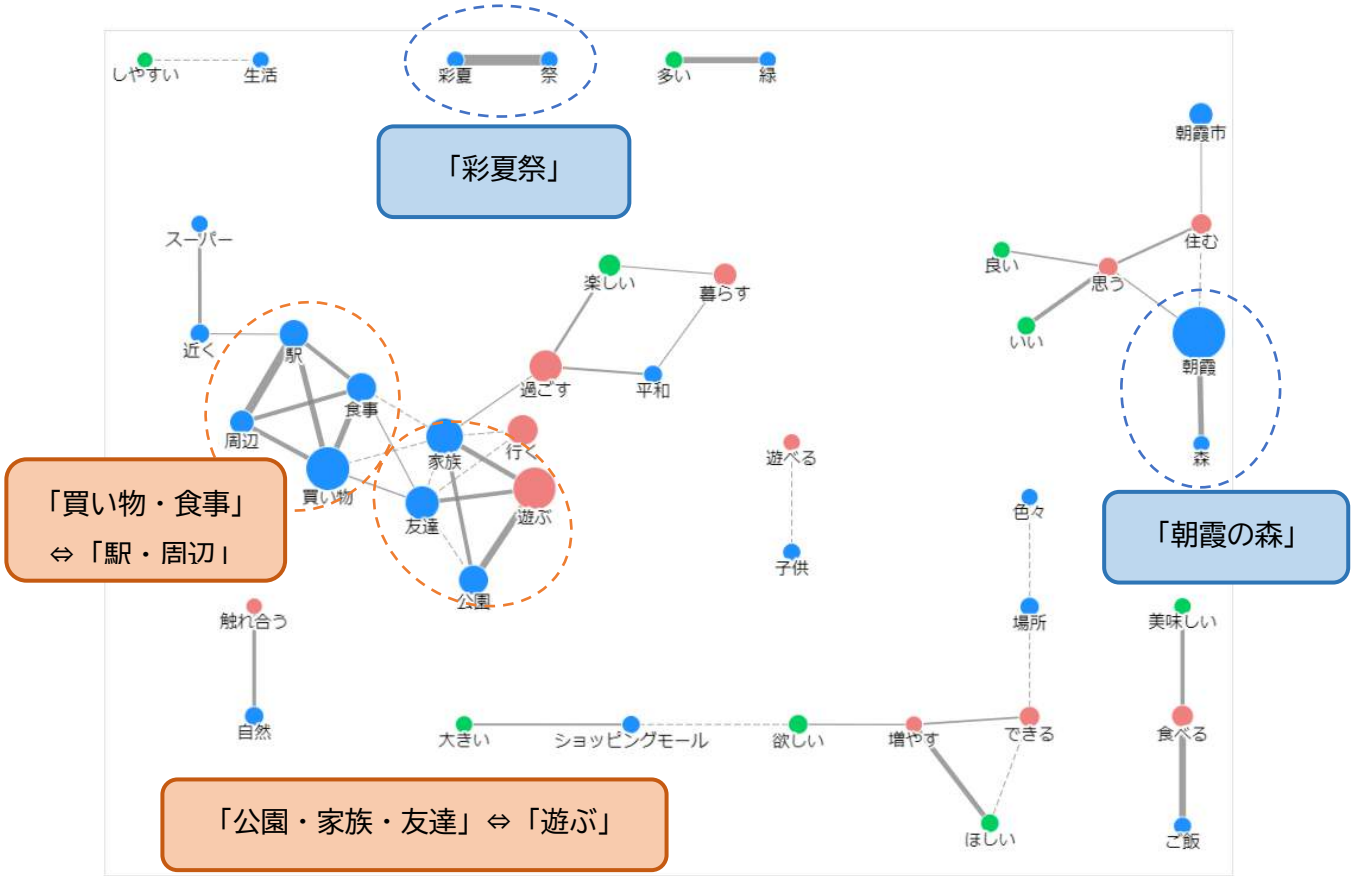


（上図の青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を示す）

ワードクラウドとは、文章における単語の特性を視覚的に表現した図のことを指す。上図では、文字のサイズが大きいほど、その単語の文章における重要度や出現頻度が高いことを示す。

最も大きな単語は「朝霞」となっている。次いで、名詞では「買い物」「ショッピングモール」「公園」「食事」「家族」「友達」などが大きい。動詞や形容詞は、10～20 年後の具体的な過ごし方に関して、「過ごす」「暮らす」「遊ぶ」「住む」「触れ合う」といった単語も多い。

（2）共起キーワード分析



共起キーワードとは、文章中の出現頻度が高い単語のうち、よく一緒に使われている単語を程度の強さで判断し、線で結んだ図のこと。円の大きさは、出現頻度の高さを表し、円同士を結ぶ線の太さは円同士の結びつきの強さを表す。

結びつきの強いものとしては、「公園・家族・友達」と「遊ぶ」、「買い物・食事」と「駅・周辺」が挙げられる。また、「朝霞の森」で過ごしたい、「彩夏祭」を楽しみたいという意見もある。

全体として、10～20 年後の朝霞市で、家族や友達と買い物や食事をしたり、公園で遊んだり、朝霞の森などで自然や緑に親しみながら過ごしたいという意見が寄せられた。

（3）単語出現頻度

さらに自由記述回答の特徴を把握するため、回答のうち、よく使用された単語を頻出単語として上位 30 単語を下表にまとめた。

順位	頻出単語	出現回数	順位	頻出単語	出現回数
1	朝霞	467	16	食べる	63
2	買い物	350	17	住む	53
3	遊ぶ	271	18	できる	50
4	家族	269	19	近く	49
5	友達	230	20	場所	46
6	食事	178	21	自然	45
7	公園	176	22	散歩	42
8	過ごす	173	23	思う	41
9	駅	171	24	平和	39
10	行く	151	25	ショッピングモール	31
11	周辺	107	26	一緒に	30
12	朝霞市	104	27	いい	30
13	暮らす	78	28	子供	29
14	欲しい（ほしい）	70	29	ご飯	29
15	楽しい	67	30	一緒	26
			30	買う	26

最頻出の単語は「朝霞」で 467 回であった。このほか、「買い物」「遊ぶ」「家族」「友達」「食事」等、出現回数が 100 以上の単語が 12 単語みられた。

以下、実際にどのように用いられたのか具体例を示す。

【原文例】
家族と楽しくショッピングしたいし、外食とか、遊園地とか遊べるところに子供を連れてって一緒に遊びたい。
友達と朝霞市の駅で、買い物や食事がしたい。
家族と公園で遊びたい。
美味しいご飯を食べたい。友達と楽しく過ごしたい。

総括

小中学生に「あなたの考える、朝霞市の好きなところ、もっとこうなって欲しいと思うところ」、「10～20 年後、大人になったあなたは、朝霞市でどんなふうに過ごしたいか」について聞いたところ、朝霞市の良さ、改善点、大人になったときの過ごし方についてたくさんの意見が寄せられた。

小中学生からは、朝霞市の好きなところとして、緑が多く自然が豊かなこと、東京から近く利便性が高いこと、彩夏祭などイベントが多く楽しいといった回答がみられた。一方で、公園を増やしてほしいなどの要望も挙げられた。

また、大人になったら、朝霞市でどんなふうに過ごしたいかについては、家族や友人と買い物や食事をしたり、朝霞の森などの自然に親しみながら過ごしたいといった回答がみられた。

分野別市民懇談会

結果報告書

令和６年（２０２４年）４月

朝霞市

目次

１．分野別市民懇談会の概要 1
１－１．実施の目的 1
１－２．開催日時・場所 1
１－３．参加者 1
１－４．各回の進め方 1
２．分野別市民懇談会の結果 2
１－１．市民環境部会の開催結果 2
１－２．意見概要 3
２－１．都市建設部会の開催結果 9
２－２．意見概要 10
３－１．教育部会の開催結果 15
３－２．意見概要 16
４－１．健康福祉部会の開催結果 22
４－２．意見概要 23
５－１．総務部会の開催結果 30
５－２．意見概要 31
３．資料 37

１．分野別市民懇談会の概要

１－１．実施の目的

第６次朝霞市総合計画の策定にあたり、幅広く市民の意見を聴取するために実施した。

１－２．開催日時・場所

【開催日時】

令和６年２月１７日（土）　第１回　午前１０時３０分～正午
　　第２回　午後　０時３０分～午後２時
令和６年２月１８日（日）　第３回　午前１０時３０分～正午
　　第４回　午後　０時３０分～午後２時
　　第５回　午後　２時３０分～午後４時

【開催場所】

中央公民館・コミュニティセンター第１、第２集会室

１－３．参加者

参加市民　　計６４人
　第１回　　１２人
　第２回　　１４人
　第３回　　１４人
　第４回　　１１人
　第５回　　１３人

１－４．各回の進め方

各分野について部会の職員から説明後、グループに分かれてその分野における朝霞市のいいところ、改善が必要と思うところ、現状について意見交換を行った。その内容をもとに、目指すべき姿について話し合い、グループごとに発表を行った。

【運営体制】

各部会職員　　計１０４人
　第１回　市民環境部会　　１１人
　第２回　都市建設部会　　２６人
　第３回　教育部会　　１９人
　第４回　健康福祉部会　　２６人
　第５回　総務部会　　２２人
政策企画課　　６人

２．分野別市民懇談会の結果

１－１．市民環境部会の開催結果

１　日　時　　令和６年２月１７日（土）午前１０時３０分～正午

２　会　場　　中央公民館・コミュニティセンター　第１、第２集会室

３　参加者　　計２３人（市民１２人、職員１１人）

４　グループディスカッション（テーブル数３）

No.	テーマ	テーブル番号
1	ごみ・環境	1
2	ごみ・環境	3
3	地域コミュニティ、商工業・農業	5

※テーブル編成の都合上、テーブル２、４は欠番である。

１－２．意見概要

テーブル番号	1
ディスカッションテーマ	ごみ・環境

① 課題（現状の姿）

【ごみ】

主な意見

①朝霞には最終処分場が無いことを知らない。

②プラごみの汚れのレベル判定が難しい。

③ごみのアピールが少ない。

④おむつが多くなる。

⑤大人に言っても無駄。

【環境】・・・［水とみどり］自然環境についての意見が出された。

主な意見

水について

①根岸水路の管理があいまい。動植物が守られていない。

②湧水が減っている。水辺の環境に湧水を入れるべき。
水辺の環境と言っても様々である。

③河川のごみについて。特に目につく所は浜崎黒目橋
水田が減少しているのを何とかできないか。農地法も何とかしてほしい。

みどりについて

④斜面林（ボランティア管理）４箇所の場所を市民の方々が知らない。

生物多様性・共生について

⑤生き物のすみ家を保全したいといいながら、どこもかしこもコンクリートで固めるのは問題。内水はんらんの減少にもコンクリートは最小限に。

⑥CO_2削減と言いながら、何万個、何十万個のＬＥＤを使ったイルミネーションを誇らしげに宣伝するのは問題。特に植物につけるのは大問題。

⑦昆虫への光害をやめる。

⑧暮らしの中の生活環境として、自然との共生。

② あるべき姿（望ましい姿）

【ごみ】

『１００年後の朝霞―子ども達に素敵な朝霞を残せ！―』

主な意見

①「マヨネーズ容器は洗わずに燃やすごみ」と広報の１ページに。

②汚れはゼロ１００が良い。

③分別をもっとわかるように（ＨＰ・広報）。

④広報をもっと分厚くしてほしい。

⑤子どもに教育をする。

【環境】

主な意見

①根岸水路の管理を調査して決める。動植物をまもる。

②湧水地の保全を行う。水涵養を積極的に行う。

雨水を地面に吸わせる。湧水の調査を発表。

朝霞は川だけでなく湧水がある。これを守る。

③川、斜面林、文化財など市の目玉となるものが周知される。

黒目川の歴史をまとめた事を、市民に知って頂くために博物館を利用。

共通する内容として

〇考え方を変える努力が必要。

〇小学生からの教育を充実する。

〇河川や湧水、里山などの樹木は、朝霞市が誇れる財産であるので、残す努力が必要。

〇市民に周知するために、部署を超えて文化財、斜面林、河川、湧水などを紹介したマップなどを作る。

その他（ごみ・環境以外の意見）

〇町内会の活動がよく分からない。

➡外灯・消火器の取り扱い

〇何を作り替えるにせよ市民の声を聞いているのでしょうか。例えば、公共設備のトイレ

➡何でも使う人の意見をまず聞いてみる。委員会とかの場以外でも。

〇市民への周知の仕方がもう一工夫必要。

➡周知は大きな文字で一点毎に広報で問題点を取り上げて知らせる。

〇市の委員会に市民が入ることについて。

➡どんな委員会を構成するのにも候補制を重視してやる気のある人に委任して。成立

しない委員会を考えて！！

市内在住の専門家の力をもっと借りて行政の力にしたらどうか。

〇道路の整備についても、めりはりをつけて目的をしぼり、一番何が大切かの視点で計画を立てる。

➡少しずつかわってきているので、このまま加速して進める。

〇街路樹の剪定について。時期を見ての手入れを行う。

テーブル番号	3
ディスカッションテーマ	ごみ・環境

① 課題（現状の姿）

【ごみ】
主な意見
①カラス被害のごみが散乱。
②不用品等の捨て方が分からない。
③外国人の増加によるごみの分別等の不徹底。
④放置されたごみを近隣住民では拾いきれない。
⑤ごみ集積所（収集箱）にごみが入りきらない。

【自然】
主な意見
①野生の小動物が街中に出てくる。
②樹木が切られても植えなおさない。
③公共施設の緑化は施設ごとの管理であり、市の施設全体の緑化の考えがない。

【川の美化】
主な意見
①新河岸川にも焦点をあててもらいたい。
②川の中にごみが放置されている。
③冠水が頻繁に発生する。

【街の課題】
主な意見
①事業所から騒音や振動が生じている。
②放置自転車が置かれたままになっている。

② あるべき姿（望ましい姿）

【ごみ】

主な意見

①網（カラス除けネット）の徹底。

②利用していない家具や不用品の再利用。

③外国人に対し、ごみの捨て方を理解するための多言語アプリの活用。

④市内で活動する様々な団体とコラボして、スポＧＯＭＩへの参加も含めごみ拾いに特化したイベントの実施。

⑤ごみが収まらない原因が、新たに建った住宅が加わったことにより面積不足が生じていることから、集積所利用者間で話し合うことが必要。

【自然】

主な意見

①野生の小動物が棲みやすい場所と餌となるものの植物を残す。

②伐採したら、その分を植えなおす。

③公共施設の緑化は、施設ごとの管理にとどまらず、施設を超えて協議する。

【川の美化】

主な意見

①新河岸川にも珍しい鳥類や昆虫がいるので、ＳＮＳで情報発信をする。

②現状は、周辺住民で清掃をしているが、市民と行政が一緒になって清掃をする。

③冠水予防のため、「田んぼダム」に行政が支援をする。

【街の課題】

主な意見

①事業所の騒音と振動に対し、市独自の条例を検討する。

②行政が速やかに回収する。

テーブル番号	5
ディスカッションテーマ	地域コミュニティ、商工業・農業

① 課題（現状の姿）

【地域コミュニティ、商工業・農業】

主な意見

・市外からの転入者が多く、以前から旧住している住民との関わりが希薄である。

・他の地域より遅いとはいえ住民の高齢化が進んでいると感じる。また、「共働き」の世帯が増えて、「昼間」に人が少なくなっている。

・社会全般でデジタル化が進みつつあるため、変化のスピードが速く、特に高齢者は変化のスピードについていくことが出来ない。

・乗降客の多い朝霞台・北朝霞駅周辺で商店等の集積が少なく、街が寂しい感じがする。

・（その他）小中学校の校名が、「地域名」ではなく、「数字」であるため、地域および地域名に対する愛着が育ちにくいと思う。

② あるべき姿（望ましい姿）

【地域コミュニティ、商工業・農業】

主な意見

・居住年数の長短に関わらず、地域の住民同士が交流できるようなイベントや仕組みが出来ると良い。

・子ども会の活動を活性化して、活動を通じて世代間の交流が図れるようになると地域への愛着も増して良い。

・高齢者同士がお互いに助け合えるような仕組み（世代内共助）を整えて、対面で人と人が繋がりあえるようになると良い。

・街の賑わいをつくるため、空き店舗を活用するような起業家などを支援する。また、持ち家の高齢者世帯の空き部屋に大学生等に割安で下宿させることにより高齢者と若者の交流が図られると良い。

・（その他）小中学校の校名を「数字」から「地域名」に変更する。また、各公共施設の名称も必要なものは見直しを行う。

２－１．都市建設部会の開催結果

１　日　時　　令和６年２月１７日（土）午後０時３０分～午後２時００分

２　会　場　　中央公民館・コミュニティセンター　第１、第２集会室

３　参加者　　計４０人（市民１４人、職員２６人）

４　グループディスカッション（テーブル数５）

No.	テーマ	テーブル番号
1	開発・住宅	2
2	上下水道	2
3	公共空間利活用	3
4	緑・公園・景観	4
5	道路・交通	5

※テーブル編成の都合上、テーブル１は欠番である。

２－２．意見概要

テーブル番号	２
ディスカッションテーマ	開発・住宅

①課題（良いところ・課題になっているところ）

【開発・住宅】
主な意見
・高層マンションがもっと増えても良い。
・駅から徒歩１０分圏内は農地より宅地にしたほうが良い。
・密集地は暗く、道路が狭く危ない。
・道が狭く交通量が多い。
・本町は一戸建てが密集し、消防車が入れない。
・建物の機能を条例等で定め、きれいなまちをつくってほしい。

②あるべき姿（２０年後のあるべき姿・今後２０年間で行いたいこと）

【開発・住宅】
主な意見
・条例による建物の品質向上。
・建物の品質を向上させるために道幅を広げる。
・きれいなまちづくりのためのルールがあったほうが良い。
・紛争の防止について、より事業主と市民の方が納得できるような手続きをつくる。

テーブル番号	２
ディスカッションテーマ	上下水道

①課題（良いところ・課題になっているところ）

【上下水道】
主な意見
・下水の更新は間に合うのか。
・下水道のキャパシティは足りるのか。
・下水道普及率が１００ではない。
・川に流す水は安全なのか。
・浸透性のある道路にならないか。

②あるべき姿（２０年後のあるべき姿・今後２０年間で行いたいこと）

【上下水道】
主な意見
・老朽化対策を実施していくことが大切。
・水道に関する老朽化対策は多く必要になることから、予算の確保を。

テーブル番号	３
ディスカッションテーマ	公共空間利活用

①課題（良いところ・課題になっているところ）

【公共空間利活用】

主な意見

・特色のある公園が多いので、もっと周知すべき。
・内間木公園など、市街化調整区域でスケボーやＢＭＸをできるようにしては。
・便利な地区とのんびりした地区のゾーニングが必要。
・駅から遠い場所をもっと活用すべき。
・施設複合化。
・朝霞水門や調整池などをプレーパークや学習に活用しては。
・黒目川の遊歩道は一部歩きづらい。
・新河岸川や荒川沿いも整備し、安全に利用できるようなルール作りを。
・独居高齢者住宅の有効活用。
・畑と冠水対策用地など２ウェイの使い方ができるようにしたほうが良い。
・寄付していただいたベンチに企業ＰＲをつけられたほうがいいのでは。
・イベント時に臨時バスを出すほうが良いのでは。

②あるべき姿（２０年後のあるべき姿・今後２０年間で行いたいこと）

【公共空間利活用】

主な意見

・駅周辺に都市機能を集約し、内間木地域や川沿いは自然と触れ合える場所であるべき。
・市街化調整区域の公園などでスケートボードやＢＭＸができるようになると良い。
・企業の送迎バスや駐車場を休日に活用してはどうか。
・空き店舗を日貸しすると賑わいが創出されるのでは。
・空き家や単身高齢者の家に大学生に住んでもらうと、まちの賑わいや高齢者の見守りにつながる。
・黒目川沿いがもっと歩きやすくなっていてほしい。

テーブル番号	４
ディスカッションテーマ	緑・公園・景観

①課題（良いところ・課題になっているところ）

【緑・公園・景観】
主な意見
・シンボルロード・朝霞の森・黒目川の緑が豊かで歩いていて気持ちが良い。
・市民が主体となって田島緑地の整備が進み、多くの生き物が見られる。
・シンボルロードの植物保護。
・水と緑のネットワークを広げる。
・黒目川沿いのベンチを増やしてもいいのでは。
・新しい公園の周知。
・湧水を大切にしてほしい。
・小さな公園が生かされていない。
・川のごみが長らく撤去されていない。
・緑に関する予算・人員が少なすぎる。
・基地跡地第２期整備が止まってしまっている。
・基地跡地の自然観察会を実施してほしい。
・林や農地の開発が進んでしまっている。自然を残して憩いの場にできないか。
・新型コロナウイルスを契機に市民参加が後退してしまった。
・国有地を早く解放してほしい。
・黒目川の桜の老朽化が進んでおり、植え替えが必要。

②あるべき姿（２０年後のあるべき姿・今後２０年間で行いたいこと）

【緑・公園・景観】
主な意見
・国有地が市の所有になっていてほしい。
・黒目川など、歴史ある朝霞のまちを残してほしい。
・黒目川周辺が緑に囲まれ、憩いの場になっていてほしい。
・緑を増やし、生き物と接触できるようになってほしい。
・環境税の導入等により国有地を買い取ってほしい。
・自然豊かなまちで子育て、老後が送れるまちになっていてほしい。
・基地跡地はすべて市民が利用できるようになってほしい。
・基地跡地利用計画を見直してほしい。

テーブル番号	5
ディスカッションテーマ	道路・交通

①課題（良いところ・課題になっているところ）

【道路・】

主な意見

・バスの利用者、本数の減少。
・イベント時にバスの利用が不便。
・狭い道が多く、歩道がない道もある。
・デマンド交通の実現。
・シェアサイクルによりバスの利用が減ったが、放置自転車は少なくなった。
・自転車専用レーンの確保。
・北朝霞・朝霞台駅の連絡通路の印象を良くしたい。
・まちに駐車場が多い。

②あるべき姿（２０年後のあるべき姿・今後２０年間で行いたいこと）

【道路・交通】

主な意見

・ウォーカブルなまちづくり。
・新しい交通モビリティの発展（自家用車も減る）。
・ドローンを活用した配達。
・ドローンレーンなど、新しい乗り物用道路の整備。
・動く歩道があれば。
・高齢者も交通の担い手として活躍　ライドシェア。
・市内で人の流動が増えたらバスも保つことができる。
・交通ルールが浸透しているまちになってほしい。

３－１．教育部会の開催結果

１　日　時　　令和６年２月１８日（日）午前１０時３０分～正午

２　会　場　　中央公民館・コミュニティセンター　第１、第２集会室

３　参加者　　計３３人（市民１４人、職員１９人）

４　グループディスカッション（テーブル数３）

No.	テーマ	テーブル番号
1	学校教育	2
2	生涯学習	4
3	生涯学習	5

※テーブル編成の都合上、テーブル１、３は欠番である。

３－２．意見概要

テーブル番号	２
ディスカッションテーマ	学校教育

①　課題（現状の姿）

【意見交流の場】
・この懇談会に現場の教員が出席していない。
・生徒と保護者の利害関係のない話し合いの場が無い。

【教員の負担軽減】
・教員の負担解消。
・教員、学校の孤立化。
・部活動支援。
・教員不足。

【いじめ、不登校】
・いじめ、不登校への対応。
・教員、生徒のメンタル。
・スマホ利用によるいじめ。
・みんな一緒に同じことをやらなければいけないという教育。

【学校の多様化（子どもの主体性の尊重）】
・小学校高学年～中学校は選択授業があると楽しく勉強ができる。
・部活動だけではなく、サークルのような自分たちでやりたい事を作れる。
・教員の給料が安すぎる（使命感だけでは限界があると感じている）。
・主体性がない→選べない。
・小学校と中学校とに、学習面、生活面に違いがあり過ぎる。
・中学で部活以外の楽しみを。
・選択科目が無い。

② あるべき姿（望ましい姿）

【意見交流の場】
・意見なし。

【教員の負担軽減】
・事務補助員の配置。
・外部指導員の活用。
・理科支援員（小学校）の業務のレベルアップと給与改善。
・退職した教員（大学、高校、中学）の活用。

【いじめ、不登校】
・情報機器の正しい使い方の指導。
・カウンセラーの充実。
・子どもの『休力』。
・ＡＩの活用。
・選択していい教育に。

【学校の多様化（子どもの主体性の尊重）】
・サード・プレイスをつくる（同じ関係の人、当事者会）。
・柔軟な個に対する。
・いかなくても良いシステム。

テーブル番号	４
ディスカッションテーマ	生涯学習

① 課題（現状の姿）

【学びの考え】
・主体性、パラダイムシフト。
・「自ら」という視点に着目した取り組み、環境整備。
・学ぶ意欲が足りない、低い社会参加。

【連携】
・東洋大学との連携（文化・スポーツ）。
・市内企業との連携（企業施設の利用）。

【情報】
・全てのイベントに対する告知が弱い。
・ニーズの適切な把握。

【グローバル、多文化】
・ＳＤＧs、平和。
・グローカル、多様性への対応。
・外国人が増加していくと思われる（他国文化など）。

【施設の管理・運営】
・公民館の老朽化、建替計画。
・公民館の利用基準の見直し（利用しやすさ、申し込みしやすさ）。
・図書館展示スペースが勉強用として占拠されている。
・発達課題。

【その他】
・孤立化。
・「生涯学習」の名称。
・ＩＴとリテラシーとの関係で浮き彫りになってきているジレンマへの対応。

② あるべき姿（望ましい姿）

【学びの考え】
・意見なし。

【連携】
・アウトリーチ。
・世代間差のない意見交換の場が必要。
・小学生のスマホ教室。

【情報】
・意見なし。

【グローバル、多文化】
・生涯学習課内に「ユネスコ係」を設ける。

【施設など】
・広場。
・地域活動拠点。
・公民館などで作品（絵画、書道など）を販売してはどうか。

【その他】
・生涯学習を専門的に広げていくために社会教育士など、専門職員の増員。

テーブル番号	5
ディスカッションテーマ	生涯学習

① 課題（現状の姿）

【ウェルビーイング】
・社会教育と学校との共有がない。

【ハード】
・施設のバリアフリーが遅れている（障害のある人、高齢者が少しずつはみ出されている）。
・高齢者向けの運動の検討をしてほしい。

【ソフト】
・博物館の展示内容が古い。
・博物館の動画が古いまま（更新されていない）。
・図書館資料の更新がうまく進んでない。
・ベビーベッドが設置されていない。
・備品のメンテナンス不足。

【施設のあり方】
・公民館は目的がないと入りづらい。
・図書館（本館・分館）の格差が大きい（蔵書や座席）。

【利用のあり方】
・スポーツ関係の教室等に申し込んでも参加できない（募集人員、日数）。
・高齢者向けイベントが少ない。イベントが多く参加に迷う。
・公民館利用者の偏り（グループ）。
・図書館の利用が少ないように感じる。

【人材育成】
・生涯学習分野で社会教育士のキーパーソンが福祉と連携してほしい。
・社会教育に専門職員が不足している。

② あるべき姿（望ましい姿）

【ウェルビーイング】
・学校も地域もＷＩＮ－ＷＩＮに。

【ハード】
・施設のバリアフリーに重点。人生１００歳の時代。

【ソフト】
・備品に予算を。
・リサイクル品を活用したベビーベッドの設置。

【施設のあり方】
・公民館にも憩いの場がほしい。

【利用のあり方】
・朝霞市ＰＲビデオを市民によるコンテストで優秀作品を活用。
・成果的な動向（方針）などは、日本語で分かりやすく表記。
・ＩＴリテラシーの充実を。

【人材育成】
・正規職員の採用を増やす。
・専門職員の養成に予算を確保する。

４－１．健康福祉部会の開催結果

１　日　時　　令和６年２月１８日（日）午後０時３０分～午後２時

２　会　場　　中央公民館・コミュニティセンター　第１、第２集会室

３　参加者　　計３７人（市民１１人、職員２６人）

４　グループディスカッション（テーブル数４）

No.	テーマ	テーブル番号
1	子ども・子育て	2
2	健康・医療	3
3	高齢者　いきいき長寿	4
4	地域福祉と障害福祉	6

※テーブル編成の都合上、テーブル１、５は欠番である。

４－２．意見概要

テーブル番号	２
ディスカッションテーマ	子ども・子育て

① 課題（現状の姿）

【子ども・子育て】
主な意見
【保育支援】
・マンションが建つと通学圏内の小学校が満杯となってしまう。
・保育園の待機児童は減ったが放課後児童クラブの待機児童が多い状況。
小学生から中学生の子がいる世帯の転出の一因となっている。
・保育士の仕事（事務負担等）が多すぎるのではないか。

【住まい・公園】
・公園が少ない。特にボール遊びができる公園が少ない。
・マンションを建てる場合には公園を作るなどの規制が必要では。

【子どもの居場所づくり】
・不登校児童の居場所づくりや対応をもっと手厚くする。

【親への支援】
・共働き家庭への産前産後ケア（父親への情報発信）が必要。
・出産までの支援体制はよいが、産後ケア（０～１歳）が弱い。
・支援や事業が、当事者に伝わっていない。

② あるべき姿（望ましい姿）

【子ども・子育て】
主な意見
【目指すべき姿】
・「子育てするなら朝霞」と言われるブランドイメージを作る。
・子どもを産み育てやすいまちにする。

【全体に関連する方策】
・あらゆる制限を緩和し、支援につなげる。
・伝わる情報発信方法（見せる化）の検討。
・子ども・子育て施策に係る当事者からの意見や情報の吸い上げ方を検討。
・ＩＴ化の推進。

【保育支援】
・共働き家庭が多いため、関連する施設の開館や利用時間の早め化や遅く化を図るなど、あらゆる制限を緩和して働きながら子育てしやすい環境を整える。
・様々な保育に係る施策や支援の情報発信方法を工夫する。
・保育士の仕事状況を把握し、事務などの負担を軽減して保育に専念してもらう。

【住まい・公園】
・ボール遊びができる公園を増やす。

【子どもの居場所づくり】
・居場所（サード・プレイス）づくり。
・不登校児への対策。
・当事者同士の交流の場づくり。

【親への支援】
・共働き家庭への支援。
・父親への情報発信。
・産後ケアなどの支援や事業について当事者に伝わるよう情報発信方法を検討する。

【交流の場】
・ひらかれた学校づくりや子ども施設と高齢者施設をリンクさせるなど、さまざまな世代が交流し、よい影響や互助関係を築く場をつくる。

テーブル番号	3
ディスカッションテーマ	健康・医療

① 課題（現状の姿）

【健診、予防接種、母子支援について】
主な意見
・大人の健診・・・健診率が低いため、改善策が必要。骨密度測定の追加。
・子どもの健診・・・集団検診がメイン。
・予防接種・・・帯状疱疹ワクチンの補助がない、コロナ等感染予防対策の実施。
・母子の交流・・・母子の交流、子育て支援をする場所が少ない。

② あるべき姿（望ましい姿）

【健診、予防接種、母子支援について】
主な意見
・大人の健診・・・健診率ＵＰのためのＰＲやキャッチコピー。
・子どもの健診・・・個別健診も選べる体制、自由に日時が選べるメリット。
・予防接種・・・帯状疱疹ワクチンの補助の実施。
感染対策（手洗い・うがい等）が習慣となるような取り組み。
・母子の交流・・・仲町保育園（子育て支援センター）での取り組みを他の園でも実施。

テーブル番号	4
ディスカッションテーマ	高齢者　いきいき長寿

① 課題（現状の姿）

【発信】
主な意見
・フレイル予防をする機会と、そのよびかけが低い。
・市民活動の告知。

【つながりあう】
主な意見
・社会参加が少ない。
・よりあう場所が少ない→つながりをつくれない。
・孤独・孤立。
・高齢者を取りまく状況を伝えて欲しい。

【成年後見制度】
主な意見
・成年後見制度未整備。

【ざっくばらんに　たよれる場所】
主な意見
・ざっくばらんに困り事を言う処がない。
・相談窓口（支援センター）が近くにない。
・こまり事の相談場所が知りたい！
・「自助」の行きすぎ＜グループ５【制度　環境】にも含まれる＞

【制度　環境】
主な意見
・車イスになった時の道路が不安。
・介護事業者が足りない　人手不足。
・「自助」の行きすぎ＜グループ４【ざっくばらんに　たよれる場所】にも含まれる＞

② あるべき姿（望ましい姿）

【発信】

主な意見

・地域のＳＮＳ。
・広報あさか市民活動拡大。
・コミュニティＦＭの活用。
・ＰＴＡでの告知。
・健康診断時での告知。

【つながりあう】

主な意見

・市民のがっこう（クラブ、委員会）。
・地域活動の拠点。
・企業との連携（社会への告知）。
・地域通貨。
・いつでも都合がいい時に集える場所。
・若い方との交流の場所が欲しい。
・児童館への参加見学。

【成年後見制度】

主な意見

・成年後見制度支援事業。
・成年後見制度基本計画策定。
・成年後見中核機関協議会。

【制度　環境】

主な意見

・介護職員への助成。

テーブル番号	6
ディスカッションテーマ	地域福祉と障害福祉

① 課題（現状の姿）

【制度】

主な意見

・高齢者、障害のある人への偏見は根強い。
・制度も施設もできているが巷では、我関せず者が増えている。
・高齢者、障害のある人の生活は多様になるが、家族の苦しみは変わらない。
・地域包括区分が生活実態に分割されていない。
・成年後見人制度が不十分。
・福祉計画、介護計画に介護予防予算を。

【地域コミュニティ】

主な意見

・高齢者地域内でのコミュニティが不足。
・孤立世帯の把握と対応。
・地域活動参加者の減。
・互助の考え方は難しい（どこまで踏み込めるか）。
・互助の必要経費。
・高齢者への支援不足。
・高齢者は移動が大変。

② あるべき姿（望ましい姿）

グループ１⇒【制度】

主な意見

・意識変革教育のチャンスを多くもうける。
・施設依存型になりやすい→家族との生活の大切さを認識。
・諸制度のＰＲを。
・地域包括支援センターの６圏域の見直し、または圏域の増設。
・法人後見人制度を導入。
・予算化。
・知る環境、体験福祉の充実→理解。

グループ２⇒【地域コミュニティ】

主な意見

・予算化。
・あいはぁと事業の強化、ごみ出し助っ人制度。
・町内会のあり方、新しい町内・自治活動の誕生へ。
・移動スーパーの導入（高齢者施設などを巡回）。

〇ニーズ

・行政が出向いて聞きに行く。

５－１．総務部会の開催結果

１　日　時　　令和６年２月１８日（日）午後２時３０分～午後４時００分

２　会　場　　中央公民館・コミュニティセンター　第１、第２集会室

３　参加者　　計３５人（市民１３人、職員２２人）

４　グループディスカッション（テーブル数４）

No.	テーマ	テーブル番号
1	広報・広聴	A
2	行財政・公共施設	B
3	デジタル	C
4	防災	D

５－２．意見概要

テーブル番号	A
ディスカッションテーマ	広報・広聴

① 課題（現状の姿）

【広報・広聴】
主な意見
【良い点】
・ホームページが充実していて、頻繁に更新されている。
・広報が宅配で各家庭に届くのは助かる。
・説明会やワークショップを開いて、市民への説明や意見聴取がされている。

【悪い点・改善点】
・ホームページの情報量は多いが、探しづらい部分がある。
・広報は月１回しか発行されず、紙面に限りがある。
・説明会やワークショップの参加者が少ない。周知されていない。
・各施策の当事者から意見を聴く仕組みがあるとよい。
・オンラインで意見を伝える場が欲しい。
・防災行政無線が聞き取りにくい。

② あるべき姿（望ましい姿）

【広報・広聴】
主な意見
・市民に必要な情報が届いている（ホームページや広報での伝え方を工夫する）。
・見たくなるホームページにする。
・ホームページで知りたいことを聞くと答えてくれる（ＡＩチャットの導入）。
・見て楽しい広報誌にする。
・広報のページ数を増やす。
・市民の意見を聴く機会を増やす。
・ホームページにパブリックコメントやワークショップに関するページを作る。
・若い世帯の意見を反映する仕組みを作る。
・説明会やワークショップに参加しやすい（敷居を下げる）。

テーブル番号	B
ディスカッションテーマ	行財政・公共施設

① 課題（現状の姿）

【行財政・公共施設】
主な意見
【良い点】
・図書館、図書館北朝霞分館が良い。
・建て替えをしないところ。
・市役所本庁舎を部分的に直すのはよい（本館１階トイレなど）。

【悪い点・改善点】
・築年数の古い建物が多い。
・築５０年以上の施設が多い。
・古い保育園の調理施設を新しくしてほしい（魚が生臭い）。
・公民館の利用方法について利用者の意見聴取の場がない。
・３０年後に集中する建て替え計画をしっかり作ってほしい。
・公共施設の再配置、集約化の検討。
・未利用国有地の活用を前に進めるべき。

【その他】
・本当に８０年も施設を使う気なのか。
・財政収入、支出の件を市民の目で意見する場が必要。
・財政について話す分野別懇談会がない。

② あるべき姿（望ましい姿）

【行財政・公共施設】

主な意見

・使いやすくて予約方法がわかりやすい、どんな世代も集うことができる場。
・公共施設の利用者協議会の設置。
・利用度の低い施設を別用途の施設への転用と法整備。
・次の５０年を見据えた公共施設の統廃合、再配置　→美しいまちへ。
・安心、安全、災害に強いまち　→災害対策を意識した公共施設の建設、計画。
・コンパクトシティ化　→人口減少を見据えた防災、災害対策。
・ハザードマップ上にある公共施設の移転。
・耐震に問題がなければ、古い建物をリメイクしていくのがこれからの時代であり、先駆けて実施する市になってほしい。
・公共施設の民営化、市民自主管理の推進。

【その他の意見】

・子育てや教育分野で新しい取り組みをどんどん実施してほしい。
・他の自治体からも住みたいと思われる市。
・市が援護している市民を雇用する企業を増やし、その企業が市の事業を受注することにより、雇用促進が図られ被援護者の収入増が図られるとともに、結果として扶助費の歳出削減につながるのではないか。

テーブル番号	C
ディスカッションテーマ	デジタル

① 課題（現状の姿）

【デジタル】
主な意見
・人を育ててほしい。
・一般人のフォローができているか。
・デジタル庁に職員を出向させてほしい。
・「行かない」「書かない」がおくれている。
・ＤＸが縁遠い人のフォローをしてほしい。
・市としてのＤＸの位置づけがみえない。
・ＤＸ分野予算が少ない→人を育てることに注力。

② あるべき姿（望ましい姿）

【デジタル】
主な意見
・職員の方の負担軽減を図るＤＸ。
・ＤＸ人材をどんどん国に送り込もう。
・行かない・書かない・待たないの実現。
・各種ワンストップの手続き実現。
・困ったときに適切な情報が出てくる。
・チャート式でＹｅｓ・Ｎｏや地域選択位で情報が探せる朝霞。
・わかりやすい行政手続きの実現。
・市役所に行かなくても済む。
・電子投票の実現。
・防災情報の見える化アプリ導入。
・誰一人取り残されないＤＸ・デバイド対策。
・広聴に特化・参加しやすい仕組みづくり。

テーブル番号	D
ディスカッションテーマ	防災

① 課題（現状の姿）

【防災】

主な意見

・助け合う習慣が薄い。
・避難行動要支援者個別避難計画が進んでいない。
・町内会の防災における役割がわからない。
・防災訓練を町内会、民生委員、地域防災アドバイザーが連携して行う方がよい。
・福祉避難所の明確化、周知。
・朝志ヶ丘、三原地区の住宅密集地火災対策。
・内水氾濫対策。
・高齢者は、避難場所に行くのが困難。
・福祉避難所が浸水想定区域にある。
・災害時にどこに避難したらよいかわからない。
・防災行政無線が聞こえない。
・日頃の防災情報が伝わっていない。
・防犯カメラの不足。
・信号が少ない。
・避難場所の安全性。
・電灯が少ない。
・内水や積雪に対する広報が少ない。
・防災公園が少ない。

② あるべき姿（望ましい姿）

【防災】

主な意見

・防災訓練の充実。
・防災訓練参加者の増加。
・予防的な対応の充実。
・町内会、行政、民間企業の連携。
・自治会の活動内容を広める。
・情報の伝え方の工夫。
・広報誌の活用。
・安全に避難するための体制、施設、設備の充実。

3．資料

募集チラシ

第６次朝霞市総合計画の
策定に向けた

分野別
市民懇談会
参加者募集!!

現在、市では令和8年度からの10年間を計画期間とする「第6次朝霞市総合計画」の策定に向けた取組を進めています。その一環として市民の皆様の意見を幅広く伺い、計画内容に生かしていくため、「分野別市民懇談会」を開催します。

各回のテーマについて市の職員が現状と課題を説明し、市民の皆様が日頃感じていることなどについて参加者と職員で意見交換を行います。

回	開催日	時間	テーマ	担当部会
第１回	令和６年 ２月１７日 (土)	午前１０時３０分 ～正午	住みよい環境づくり ～生活環境・産業振興・ コミュニティ～	市民環境部会
第２回		午後０時３０分 ～午後２時	未来を拓くまちづくり ～次世代につなぐ インフラ整備～	都市建設部会
第３回	令和６年 ２月１８日 (日)	午前１０時３０分 ～正午	生きる力を育む朝霞の教育 ～学校教育と生涯学習～	教育部会
第４回		午後０時３０分 ～午後２時	朝霞の福祉 ～子ども・子育てと いきいき長寿～	健康福祉部会
第５回		午後２時３０分 ～午後４時	「暮らしつづけたいまち朝霞」 を目指して ～行財政・防災～	総務部会

場所／中央公民館･コミュニティセンター（第1、第2集会室）
対象／どなたでも
定員／各回60名　**参加費**／無料
その他／
事前申込不要。直接会場へお越しください。
いずれか1回だけでも参加できます。
お子様連れでの参加も可能です。
手話通訳者を配置しています。

問い合わせ
朝霞市役所　政策企画課
☎048-463-3089
✉ seisaku_kikaku@city.asaka.lg.jp